

a&S

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

JAPAN

www.asj-corp.jp Nov / Dec. 2011 no.25

セキュリティ産業 10年後の隆盛と変貌

安心を保証するホテルのセキュリティと管理

GDSF JAPAN 2011 レポート



 **KxViewPro**

 **NetCam**
IP Network Monitoring System

録画ソフトウェアの メインストリーム KxViewPro

追加オプションで機能拡充

- ・カメラ中継ソフトウェア [NetCam GATE]
- ・車両ナンバー認識システム [ナンバーアイ]
- ・ネットワークカメラ録画サービス [さば録]

高品質・低価格のセキュリティシステムを提供する
店舗プランニングの豊富なラインナップ！



▶豊富なラインナップを持つ アナログカメラシリーズ

▶高解像度の プログレッシブ・ネットワークカメラシリーズ

▶進化したセキュリティカメラ 高機能・高画質カメラ & 最新HD-SDI録画装置 **COMING SOON!** HD-CCTVシリーズ

最新のネットワークカメラによる ビジネス価値の向上

- 1** IG2050F [HD IP固定カメラ]
デイ/ナイト(TDN)機能付き
フルHDネットワークカメラ



- 1/3インチ・プログレッシブCMOSセンサ搭載、TDN(ICR)
- 最大フルHD(1920×1080)、30fps
- H.264/MJPEGのデュアル・コーデック・ストリーミング PoE対応
- デュアル・オーディオ(ADPCM)、SDメモリカード

- 2** IDC4050VR [HD IPドームカメラ]
高解像度プログレッシブ・
フルHDネットワークカメラ



- 1/3インチ・プログレッシブCMOSセンサ搭載、TDN(ICR)
- DCアイリス・バリフォーカル・レンズ(3~10mm)、赤外線LED 18個
- 最大フルHD(1920×1080)、30fps
- H.264/MJPEGのデュアル・コーデック・ストリーミング PoE対応

- 3** IBP5030CR [メガピクセル耐候カメラ]
高解像度プログレッシブ・全天候型
ネットワークカメラ



- 1/2インチ・プログレッシブCMOSセンサ搭載、800TV本
- DCアイリス・バリフォーカル・レンズ(7.5~50mm、F=1.3)
- 最大1.3メガピクセル(1280×960)、24fps
- 赤外線LED 206個、センサ 1個

XNET Alliance Partner

ONVIF
Driving IP-based physical security through global standardization



CNB
TECHNOLOGY Inc. CNB Technology Inc. 日本総販売代理店

TENPO
PLANNING 株式会社 店舗プランニング セキュリティ事業部

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-46-3 シモトビル2階 TEL.03-3378-4901 FAX.03-3378-4906

仙台営業所 名古屋営業所 大阪営業所 福岡営業所 技術センター

<http://www.tenpo.co.jp>

製造元 CNB Technology Inc.

より詳細を!より鮮明に!

FLIR SRシリーズ



NEW FLIR SR-334

NEW FLIR SR-348

低価格 防犯・監視向 赤外線カメラ SR334/348

フリーシステムズのSR334/348は、暗闇や薄霧、煙の中でも、鮮明で明瞭な赤外線画像をとらえることができる、低価格の防犯・監視用赤外線カメラです。SRシリーズには、その他、一般、産業、軍事向など多岐にわたり採用されている最先端の赤外線画像技術が用いられており、この技術により、可視カメラ、またナイトビジョンなどと比べ、暗闇や悪天候の下、より鮮明な映像をとらえることが可能です。

SRシリーズは、シリアル制御、アナログコンポジット出力アダプタを搭載しているため、一般的なネットワークへの組み込みが簡単に行えます。320×240、640×480ピクセルの高品質画質での24時間365日体制での防犯・監視体制を簡単に導入することができます。また、各種レンズを取り揃えているので幅広いニーズにお応えします。

メーカー希望小売価格
¥360,000円 (税別) より

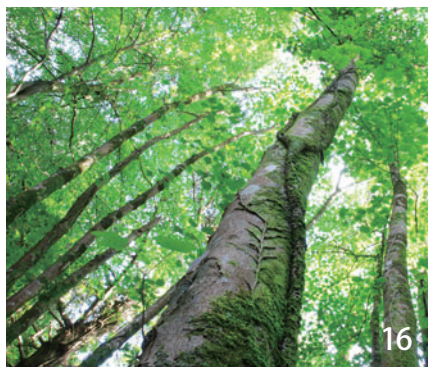
製品に関するお問い合わせは
 お気軽に以下までどうぞ

フリーシステムズジャパン株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-20
 西五反田アクセス8F

☎ : 03-6277-5681
 Fax : 03-6277-5682
 e-mail : info@flir.jp
 www.flir.com/cvs

www.flir.com/cvs



表紙解説

- 4 録画ソフトウェアのメインストリーム
KxViewPro

特集

16 セキュリティ産業、 10年後の隆盛と変貌

個別市場動向

- 24 安心を保証するホテルのセキュリティと管理
32 ホテルのセキュリティとビル管理の統合化

注目企業

- 14 キーマン・インタビュー
AXIS COMMUNICATIONS AB
営業担当副社長 ボディル・ソネツソン氏
48 Bosch Security Systems社に
日本市場戦略を聞く

連載：市場慧眼

- 42 よくわかるIPネットワーク

連載：生体認証

- 44 静的署名照合システム
46 指静脈認証システム導入事例

展示会レポート

- 35 GDSF JAPAN 2011レポート
50 R.O.D、IPCC2011東京を開催
47 Bosch Security Systems、
パートナー・カンファレンスを初開催

展示会日程

- 52 展示会、プライベートショー日程

新製品情報

- 54 ヴィ・インターネットオペレーションズ

新製品欄

- 56 CCTV、入退管理、その他

- 8 国内産業ニュース
10 海外産業ニュース
63 読者の声

Brickcom

Expert in Wireless IP Surveillance



どんなディテールも見逃さない！

5 Megapixel

HDネットワーク・カメラ

Cube Series / Fixed Box Series /
Outdoor Bullet Series /
Fixed Dome Series / Vandal Dome Series



Member of |

- > スマートでコンパクトなボディ、そして解像度は5M！
- > HDTV画質 (Full HD 1080pで30fpsのストリーミングを実現)
- > 低照度でも鮮明な映像を撮影可能(1/2.5" センサー搭載)
- > 様々な設置環境に対応可能なマルチ・プロフィール・センサー管理機能
- > 無線LAN機能搭載 (802.11a/b/g/n)

- > 無線LANを簡単に設定できるWPS機能
- > 3G/4G (WiMAX/LTE) による接続も可能
- > CSマウント・レンズを装着可能
- > Micro SDカードへの録画が可能
- > PoE / 双方向音声通信 / 人感センサー / LEDライト / 外部入出力

Brickcom

Tel : 886-3-5982022 • Fax : 886-3-5982023 • E-mail : info@brickcom.com • www.brickcom.com

日本語でのお問い合わせは……R.O.Dサービス（電話06-4391-3725）まで。

録画ソフトウェアのメインストリーム KxViewPro



9/16/32/64台録画対応

・ネットワークカメラ9/16/32/64台の同時録画が可能。(ただし、64台はシステム販売に限定)

■簡単操作

KxViewProは簡単操作で誰でも使える高機能の録画ソフトウェア。録画リモコン画面、ライブマルチ画面、再生画面の3画面で構成しており、ビデオデッキよりも簡単な操作でネットワークカメラのライブ画像を視認、録画、再生することが可能。ほとんどの操作はマウスだけで、パソコン初心者でも安心して利用できる録画ソフトウェア。

■多彩なライブマルチ画面

・ライブ画面ボタンをクリックするだけで簡単にライブ画像を分割画面で視認可能
・多拠点複数カメラの監視に威力を発揮するマルチ画面は4分割、5+1分割、6分割、9分割、8+2分割、12分割、16分割、20分割、24分割画面を用意
・(クリックセレクト) 5+1、8+2分割画

面で小さな画面をクリックすると大画面に拡大

・クリックセンタリング) パン/チルト機能付きカメラにも対応、画面をクリックするだけでクリックした部分が画面中央に移動

マルチモニタへの表示対応

・デュアルモニタ表示が可能な環境の場合、2台のモニタにライブ画面の表示が可能。各ライブ画面は独立に動き、任意の分割画面、スイッチング設定等が可能

・さらに4台のモニタで、2台にライブ画面、1台にマップ画面、1台に操作画面の表示も可能

■PTZ (パン/チルト/ズーム)

■ウィンドウで楽々操作

・PTZ制御用の別ウィンドウ付き。カメラ付属のPTZボタンと同じ感覚で操作が可能。PTZウィンドウはKxViewとは別ウィンドウで開き、任意場所への移動が可能

■録画再生

・録画リモコンからの簡単操作でカメラの選択と録画が可能。最大64台までのカメラを同時録画

・録画ファイルをカメラ別、日付順、時刻順に一覧表示して、見たい画像を素早く検索

・再生モードで再生、逆再生、早送り、巻き戻し、最初・最後のフレームに簡単操作で移動

・再生画面サイズは、160×120から3840×2880ドットまで任意に拡大縮小が可能

・録画間隔は0.1秒から60秒の間でカメラごとに設定が可能

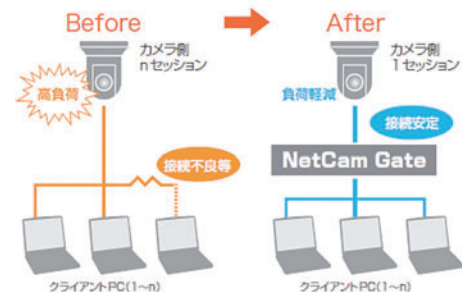
・録画圧縮は、H.264とMotion JPEGのデュアル・コーデックに対応

■ワンタッチ録画開始ボタン

・ボタン1つで全カメラの録画を開始・停止

・カメラごとに自動録画開始設定も可能で、KxViewの起動で自動録画を開始が可能

追加オプションサービス

1 カメラ中継ソフトウェア
[NetCam GATE]

最大セッション数を増やし、ポート番号の変更も可能で、カメラ側の負担を軽減し、多数のクライアントからの接続を可能にするネットワークカメラを中継するアプリケーション。

【特長】

最大セッション数を増やす：例えば同時接続セッション数10しかないカメラのセッション数を100とか200セッションへ増やすことが可能。

セキュリティの強化：NetCamGATEを中継することによりカメラへ直接アクセスする必要がなくなり、セキュリティを強化できます。

ポート番号一元化：ルーター配下に複数のカメラがある場合は通常ポートフォワーディングにより複数ポートを利用してカメラを公開しなければいけないが、NetCamGATEを利用すれば、例えばポート80番といった1個のポートで複数のカメラが公開可能になる。

ビューア用ActiveX付属：KxViewProシリーズからのアクセスはもちろん、インターネット・エクスプローラー上で動作するActiveXも付属していますので、ブラウザからの閲覧も可能となり、ホームページ等での多数向け公開も簡単に可能。

2 車両ナンバー認識システム
[ナンバーアイ]

敷地内に入退場する車両ナンバーを撮影して車両を管理。社用の検索、事故回避や在庫状況の確認など、スムーズで的確な対応が可能。

【特長】

車両ナンバーの文字データ化：車両ナンバーカメラで撮影した車両ナンバーを自動認識して文字データ化。

多種の車両管理：車両ナンバーを認識した文字データで、従業員や運送業者などの車両を管理。

正確なデータ確認：画像データと文字データを蓄積することで、正確なデータの確認が可能。

スムーズなデータ検索：入退場車両など必要なデータの簡単・スムーズな検索。

3 ネットワークカメラ録画サービス
[さば録]

ネットワークカメラの映像を当社専用サーバ(さば録サーバ)に録画保存し、遠隔から手軽に閲覧することができる新しいサービス。簡単にクラウドコンピューティング環境を実現。

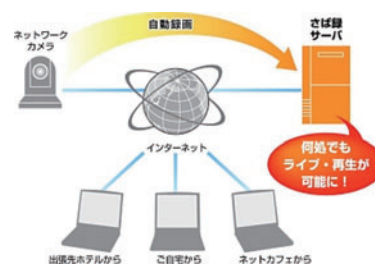
【特長】

別途機器が不要：映像録画時にDVRや録画ソフトウェアなど常に稼働する機器が必要な一般システムと異なり、「さば録」ではさば録サーバ内で映像保存するため別途機器は不要。イニシャルコストを削減。

メンテナンスフリー：現場に録画装置がある場合はハードディスクの寿命、故障、録画装置の故障等メンテナンスが不可欠。いざというときに録画出来ていないというトラブルも。さば録の場合は当社がすべてのメンテナンスを行う為、お客様はメンテナンスフリーです。

どこでも閲覧可能：インターネットエクスプローラ(IE)などのブラウザから指定のURLへアクセスし、接続IDとPASSを入力するだけでカメラ映像閲覧が可能。インターネット環境さえあれば、どんな場所からでもライブ再生が可能。

選択幅の広い利用料金：カメラ1台からカメラ100台越えの特注にも対応。月額3,000円から利用できるお手頃な料金。



必要な画像を簡単作成

・録画画像はハードディスクへの負担軽減のために10分単位に独自のMotion JPEG形式のファイルに保存。これを通常の録画ファイルをJpegファイルに展開

■ AVIファイル変換

・録画画像のAVIファイル形式動画への変換が可能

■ 画面キャプチャ(Copy)ボタン

・録画再生モード時、任意の静止画像をクリップボードにキャプチャが可能。これにより、様々なWindowsアプリケーションに簡単に貼り付け加工が可能

高解像度モード録画対応

・QVAG(320x240)、VGA(640x480)サイズでの録画に加えて、16:9モードでは最大1920x1080ピクセル、4:3モードでは最大2288x1712ピクセルでの録画にも対応

■ 録画時刻指定

・録画時刻や曜日指定が可能。(設定例) 毎週月曜から金曜日の朝9時から夜10時迄録画など

■ モーション検知録画機能

・カメラ画像内のモーション(動き)検知で、一定以上の動きを検知した時の

み画像録画

・検知感度および動作閾値レベルの調節可能

■ 対応カメラ機種

パナソニック、アクシスコミュニケーションズ、ソニー、キヤノン、ONVIF対応機器など(詳細は対応カメラ機種一覧表を参照)

株式会社ネットカムシステムズ

東京都千代田区外神田3-10-3
プライム秋葉原ビル7階
電話03-5207-8591
[KxViewPro] URL: <http://www.kxview.net>
[さば録] URL: <http://sabaroku.net>

NEC、映像と個人認証を用いた人物位置推定システムを開発

NECは、カメラ映像解析技術とRFIDによる個人認証技術を組み合わせて、人物の位置を高精度に推定する「人物位置推定システム」を開発した。

また、同システムをビル管理システムなどと連携し、NEC本社ビルで、社員70名を対象に、人物の位置を推定し、位置に応じて電力を制御する実験を行い、照明や空調、PCなどで使用する電力について、オフィスビルにおける電力消費量およびCO2排出量を約25%削減できることも実証した。

さらに、事業者における様々なセンサを活用した電力削減に向けたシステム開発を容易にするため、センサのデータ解析エンジンとアプリケーション間のデータ通信に関するインタフェース仕様を策定し、本仕様の普及に向けて、W3C(World Wide Web Consortium)で標準化活動を開始した。

NECは、今後も研究開発を進め、監視カメラの新しい用途として本実証システムの製品化を進めるとともに、技術と規格の標準化により、様々なアプリケーションに役立つサービスプラットフォーム事業を推進していく。

なお、本件は総務省の平成21年度第2次補正予算「ネットワーク統合制御システム標準化等推進事業」として行ったものである。

加藤電機、自動車盗難防止装置「NEW iVIPER i8030」を開発

加藤電機は、自動車盗難防止装置「VIPER」の操作をスマートフォンから可能にした「NEW iVIPER i8030」を開発し、販売を開始した。

同製品は、スマートフォンや携帯電話からの専用サイト「SMART QUICK」にログインし、自動車の制御や位置検索ができる。GPS方式採用により車の位置を確認する場合、従来のモデルの約10倍の精度を実現した。自動車に異常が発生した場合は、その位置情報をメールで知らせ、異常通知後自動車の盗難軌跡が確認できる。

加藤電機では、料金コースも利用環境により選べる4種類を設定したが、今後も機能やサービスの追加をしていく予定。

アクシスコミュニケーションズ、経営方針2012を発表

ネットワーク映像ソリューションを提供するアクシスコミュニケーションズは、2012年の事業展開について「経営方針2012」を発表した。同社はネットワークカメラの世界市場を牽引する企業で、アナログからデジタル映像システムへの移行を推進している。

経営方針2012は、既に2011年に実施しているパートナー連携強化、ランレート、ブランド認知の3本柱に加えて、新たにソリューション戦略を掲げている。その内容は重点施策と情報の共有としている。具体的には、低照度や屋外設置そして無線環境などで構成するソリューション、流通業や製造業そして該当監視や工場モニタリングといった産業別、ユーザ事例の作成および公開、これら3項目に基づいている。

さらに、2011年に実施しているパートナー連携強化の1つである製品販売教育について、製品知識に関するエッセンシャルズをさらに充実させる計画である。

また、上記活動に対して広く理解し利用してもらえるよう、2011年に引き続き東京、大阪、名古屋、福岡、広島、仙台、札幌などの全国主要都市で、「ソリューション・ロードショー 2012」の開催を計画している。

富士通研究所、テラヘルツ波透過による物質検査を25倍に高速化する技術を開発

富士通研究所は、光と電波の間であるテラヘルツ (THz) 波を用いた透過による非破壊検査を行う手法について、従来よりも25倍高速に検査が可能となる技術を開発した。

テラヘルツ波は、紙やプラスチックや布といった金属以外をよく透過し、対象物質を正確に把握することが可能なため、隠された物質の非破壊検査などモノの内部を「見える化」する用途で期待されている。

従来の検査手法では、1回の照射で物質の1方向のみしか測定できず、物質の全体像を測定するには対象の物質を少しずつ移動させて何度も照射する必要があるため、検査に時間がかかるという課題があった。

今回、新たな光学素子の開発により対象の物質移動を不要にすることで、縦横30mmの対象物の測定時間を従来の34分から1分21秒へと25倍も高速化した。これにより、手紙の中の薬物検査や空港でのセキュリティ検査の時間短縮、さらには機器の品質検査への応用を想定している。

今後、富士通研究所では検査のさらなる高速化を進めて2014年頃の実用化を目指し、ものづくりの検査への応用も進めていく。



Bosch、大幅な価格改訂を発表! 同時にBoschセキュリティ製品 認定販売パートナー制度がスタート

Bosch Security Systemsは、2011年10月18日、ネットワークカメラをはじめとするセキュリティ製品全体について、改定された標準価格表を発表。全製品の平均値下げ率は、16.1%に達しました。

また、Bosch Security Systemsは、価格改定と同時に、BSCP (Bosch Security Certified Partner) プログラムをスタート。Boschセキュリティ製品認定販売パートナーをリクルートする活動を本格的に開始しました。

全セキュリティ製品の 標準価格を見直し、 PTZネットワークカメラを 平均26.6%値下げ

Bosch Security Systemsは、ネットワークカメラをはじめとしたBoschセキュリティ製品全般の大幅な価格改定を、2011年10月18日に実施しました。

今回の価格改定は、ボッシュが提供するBosch HDトータルソリューションのすべての製品について、日本市場の価格動向に合わせ、全面的な見直しを行った結果を反映したものです。

この結果、全製品の平均値下げ率は、16.1%に達しました。固定ネットワークカメラは平均20%、固定ドームカメラは平均15.2%、またPTZネットワークカメラは平均26.6%の大幅な値下げになり、市場へのBoschセキュリティ製品の浸透を可能にする価格体系を実現しました。

認定販売パートナー制度を 活発化

BSCPは、Bosch Security Systemsが

全世界に展開している標準的な販売およびサービスのためのプログラムです。本プログラムは、Boschセキュリティ製品と製品に付随する各種サービスを提供する販売店、設備サービス企業を対象にしています。

このプログラムのメンバーには、4つのカテゴリーがあります。パートナー登録を完了した企業には、各種イベント・セミナー・トレーニングへの参加、Boschセキュリティ製品の最新情報提供、共同プロモーションなどについて、優先的に情報が提供されます。

BSCPのメンバーシップ レベル

BSCPプログラムのパートナーは、クラシック、ゴールド、プレステージ、ファシリティーサービスプロバイダーの4種のメンバーシップレベルに別れています。

クラシックは、エントリーレベル。Boschセキュリティ製品についての一定の知識・理解を持ち、エンドユーザーに、製品に関する簡単な説明・提案ができるパートナーです。ゴールドは、



Bosch Security Systems
「セキュリティ製品
標準価格表」
<http://www.hochiki.co.jp/business/cctv/>

Boschセキュリティ製品についての一定の知識・理解を持ち、製品・システムの設置・導入まで、トータルに提供するパートナー。プレステージは、Boschセキュリティ製品およびソリューション全般に関して、一定の知識・理解を持ち、製品・システムの設置・導入、およびエンドユーザーからの技術的なお問い合わせについても対応可能なパートナーです。

Boschセキュリティ製品に関する お問い合わせ先

Bosch Security Systems 日本総代理店
ホーチキ株式会社
インテリジェント・ビデオ・システム部
TEL. 03-5759-4164
<http://www.hochiki.co.jp/business/cctv/>

日立製作所と、指静脈認証技術を活用した認証管理システムを開発

日立製作所とは、日立の指静脈認証技術を活用し、より高いセキュリティレベルと利便性の両立を実現する認証管理システムを開発した。

両社は、日立の指静脈認証管理システムとノベル社のアクセス管理製品「Novell Access Manager」を繋いだ「指静脈－Novell Access Manager 連携システム」を共同で開発し、日立から販売を開始している。

「Novell Access Manager」は、異なるセキュリティレベルやパスワードを設定した複数のシステムを対象とした統合認証基盤である。異機種混在環境でのシングル・サインオン機能を備え、一元化されたシンプルなアクセス管理を実現する。今回共同で開発した「指静脈－Novell Access Manager 連携システム」は、ID / パスワードの盗難・流出による「なりすまし」を防ぐ日立の指静脈認証管理システムとの連携により、利便性を向上しながら高精度な本人確認が可能となる。同システムを活用することで企業は、高いセキュリティレベルを実現しながら、内部統制対策やアクセスの一元管理に関わる情報システムの運用コストを削減でき

ようになる。

日立は、今回共同開発した「指静脈－Novell Access Manager 連携システム」を日立の「統合ID認証ソリューション」のラインアップに追加し、金融機関、官公庁・自治体、製造・流通業などに向けて拡販していく。さらに、今回連携した「Novell Access Manager」のほかノベル社のアイデンティティ管理製品「Novell Identity Manager」を活用したシステムの開発など、今後、ソリューションを拡充していく考えだ。

ノベル社は、今回開発した「指静脈－Novell Access Manager 連携システム」を含む日立の「統合ID認証ソリューション」の拡販を、展示会やセミナーなど日立との共同でマーケティングやプロモーション活動を通じ、積極的に支援していく。また、将来的には国内のみならず、ノベル社の海外パートナーとの連携により、「統合ID認証ソリューション」のグローバルでの展開を支援していく計画である。

図研エルミック、ONVIF NVSのミドルウェア・ライブラリをリリース

図研エルミックは、IPネットワーク上の監視カメラでの画像の録画、検索、配信を行うためのONVIF NVS（メディアやメタデータの記録デバイス部）のVer2.0をミドルウェア・ライブラリ化し、「Ze-PRO IPrec (server)」をリリースした。同社は既に、ONVIFが定めた規格のうち、ONVIF NVT(Network Video Transmitter：ネットワーク側サブセット)を「Ze-PRO IPcam」として2009年に、ONVIF NVC(Network Video Client：クライアント側サブセット)を「Ze-PRO IPmon」として2010年にリリースしている。これで、ONVIF準拠のネットワークカメラシステムに必要な構成要素が全てそろった。

日商エレクトロニクス、ベトナム法人を設立

日商エレクトロニクスは、アジア地域における事業基盤の構築と事業強化策として、東南アジア初となるベトナム現地法人を設立し、10月より営業を開始した。

同社は、海外事業展開の加速とサービス事業の拡大を主要戦略として掲げており、アジア地域における積極的な事業展開を目的に、ベトナムに現地法人を設立した。

ベトナムはアジア諸国の中でも高い経済成長を遂げており、ベトナム現地法人では、日商エレクトロニクスの強みである通信ネットワークのテクニカルサービスを中心とした情報通信サービスをアジア地域の通信事業会社、官公庁、大手企業などに提供する。また、日本企業向けにソフトウェアのオフショア開発サービスを提供していく予定で、日本を含むアジア諸国へのサービス拠点の一つとして位置づけていく。

トリワークス、社名変更と本社移転

2011年10月1日より社名をトリワークスから「ルクレ」に変更した。また、それに伴い事業所拡大のため株式会社DigiBook、アンドロイダー株式会社と共に本社を移転した。

新社名：株式会社ルクレ（英語表記 LECRE Inc.）

新住所：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-19

東建インターナショナルビル8F

※電話番号、FAX番号は従来通り

オプテックス、ロシアに子会社設立

オプテックスは、ロシアは今後ますます市場拡大が期待できると判断し、防犯関連事業一層の拡大と強化を図るため、モスクワに子会社を設立する。会社概要は下記の通り。

社名：OPTEX SECURITY, LLC

設立：2011年11月(予定)

所在地：ロシア連邦 モスクワ

事業内容：防犯関連製品の販売

DynaGuard™ 700 シリーズ

高機能プラグ & プレイNVR



会社概要

DYNACOLOR JAPAN株式会社は2006年6月に台湾DYNACOLOR INCの日本法人として設立され、同社製品の日本市場拡大を担っている。DYNACOLOR INCは1991年に設立されAOI(光学検査装置)を手始めに、その卓越したイメージプロセッシングの技術を活用し、CCTVの世界へ参入した。独自のマーケティング手法で市場の要求する製品を先行開発し、タイムリーに新製品を市場投入することで急速に市場シェアを拡大している。開発・設計・製造・販売を一貫して自社で実施する事で高性能、高品質、短納期、低価格を実現している。

DYNACOLOR
always watching

**DYNACOLOR
JAPAN**

〒104-0031
東京都中央区京橋3-10-1
NEWS京橋1201号
TEL 03-5524-6655
FAX 03-5524-6656
www.dynacolor.co.jp
info@dynacolor.co.jp

製品概要

DynaGuard™ 700シリーズは、プラグ&プレイ機能でIPカメラを自動認識接続し、16CHのPoEハブを内蔵するプレミアムNVRです。また、DG700シリーズは小規模から中規模IP監視システムにとって理想的なNASベースNVRです。

DG700シリーズのプラグ&プレイ機能とは、ユーザーがIPカメラをつなぐだけで、IPアドレス、ユーザー名、パスワード等わずらわしい設定不要となる便利な機能です。プラグ&プレイ機能で、ユーザーは外部電源・ハブ等を準備する事無く、イーサネットケーブルを接続するだけでシステムを構築でき、トータルコスト(TCO)をミニマイズします。

インテリジェント・ユーザー・インターフェースを持ったDG700シリーズで管理システムがより簡単に構築できます。さらに、DynaGuard™ iCMSとの融合で大規模IP監視システムを構築でき、モバイルビューアソフトによりスマートフォンで遠隔操作ができます。

特長

- 01 組込みLinux
- 02 最大16CHのIPカメラを録画/再生
- 03 プラグ&プレイ接続
- 04 8 / 16CH PoE ハブ内蔵
- 05 メガピクセル映像録画
- 06 最大16CHの音声入力
- 07 最大4台のHDDを内蔵
- 08 NTPによる時間同期
- 09 DynaGuard™ iCMS、DynaRemote™フリーバンドル
- 10 モバイルビューア(iPhone、Androidサポート)

主な仕様

モデル	DG780	DG760
システム/ソフトウェア仕様		
OS	組込みLinux	
IPカメラ入力	最大8CH	最大16CH
フレームレート/記録解像度	240 PPS @ 1080P / 720P / D1(カメラに依存)	480 PPS @ 1080P / 720P / D1(カメラに依存)
オーディオ/ビデオ記録	H.264, MJPEG, MPEG-4(カメラに依存)	
カメラ仕様	DynaColorカメラ	
リモートソフトウェア	DynaRemote™	
アプリケーションソフトウェア	Device Search, DVR Player, DynaGuard™ iCMS	
ハードウェア仕様		
ネットワークポート(アップリンク)	RJ-45 x 1, 10/100/1000 Mbps	
ネットワークポート (PoE)	RJ-45 x 8, 10/100 Mbps (PoE付)	RJ-45 x 16, 10/100 Mbps (PoE付)
PoE	IEEE 802.3af	
一般		
電源/消費電力	AC 100 ~ 240V, 50/60Hz, 300W (NVR: 200W, PoE: 100W)	

北米空港のセキュリティ市場は2016年には12億ドルに拡大

フロスト&サリバンの調査では、北米の空港および空港区域境界のセキュリティ市場は2009年で7360万ドルだったが、2016年までに12億ドルに到達すると予測している。北米の空港における十分なセキュリティ対策導入を優先すべきという意識が、空港職員や政府および境界技術の供給ベンダの間で上昇している。特に大規模空港での旅行者の増加と比例して、危険人物も増加している。このため、空港内での厳密なセキュリティ手続きを強化するための適切な技術が必要となっている。

フロスト&サリバン社は「旅行の規模拡大と高度の交通システムにより、境界保安のために、これまで以上にセキュリティ対策を導入することが緊急の問題となっている」とし、「空港警備管理者やシステム構築社そしてハードウェア・メーカーの努力は、効果的で効率的な周辺部解決のために不可欠だ」と指摘している。

2001年9月11日以後、空港警備経費の総額は、国民の関心が引き続き高いこともあり、重要施設への脅威や攻撃に対抗するために増加している。9・11以来、空港警備の実施と保守点検費用が非常に高額になっている。さらに、機内持込手荷物の監視でセキュリティ経費が膨らんでいる。大規模空港は、先進技術や改良技術を利用する傾向がある一方で、

小規模空港は、限られた予算内で対応できる範囲のセキュリティを利用している。

フロスト&サリバン社は「不十分なセキュリティ対策と高いコストとの間の難問には、オープン・アーキテクチャでカスタマイズが可能なソリューションが、高いコスト対策と、IPベース製品の十分な統合をもたらすことになる」とし、また「アナログ・デジタル監視システムからの推移が航空警備市場を押し上げる」と予想している。

接続性の高いデジタル基盤を持つことで、運営しやすい効果的な指令と管制室を創造する空港を実現することができ、仔細な視認環境をもたらす。様々なセキュリティシステムを1つのネットワークシステムに集約することは、製品供給側やシステム構築社に参入機会の増加をもたらす。システム構築社は、市場で確固たる地位を維持するために、第3段階での競合者と考えている製品供給側との協力を継続すべきである。

大規模ハブの空港向けの総合境界セキュリティモデルは、重要な社会基盤の保護に有効である。ターミナル運営での高額な支出は、空港で乗客を安全に守るためには重要である。確かに支出は高額だが、滑走路やターミナル区域での潜在的テロ攻撃の防止は、避けて通れない。

英国高等学校、ジェネテック社プラットフォームを導入

映像管理システム (VMS) の先駆者であり、世界を代表するIPセキュリティ・ソリューションの供給者であるジェネテック社は、英国ランカシャー州にあるアクリントン・アカデミーに、学生と職員の安全確保のためにOmnicastを導入したと発表した。

11歳から18歳までの1150名の学生を擁する中等学校であるアクリントン・アカデミーは、最近ユナイテッド・ラーニング・トラスト社よりスポンサーシップが付与された。そこで学校は施設をアップグレードと拡大を実施した。この投資に対する優れた価値を提供し、映像監視システムを設計し設置するために、英国ランカシャー州レイランドにあるジェネテック社認定インテグレータのGRANTfenファイヤ&セキュリティ社と契約を結んだ。同社IT & 事業部長のステイブ・ハリソン氏は、学校側にシステムの柔軟性、オープンアーキテクチャ、ハードウェア・フリー、そして拡張性とともに投資効果を用意するため、ジェネテック社製Omnicastを採用した。

クリントン・アカデミーは法律上、常にすべての生徒の居

場所の知識だけでなく、学校の財産の上に来るすべての人がアクセスできるように意図されていることを確認する能力を持っている必要がある。具体的には、キャンパス敷地内全てを映像で視認できるように死角のないシステムを設置することを指す。この条件を満たすため、導入システムに接続した2台のDellアーカイバで151台のカメラを管理している。さらに、Omnicastで盗難や破壊行為対策にICT(情報通信技術)を採用した装置を保護している。

「当社は、学生の安全性が、学術の卓越性促進しようとする上で最重要とを認識している」とジェネテック社英国営業マネージャのキャバン・ケンドール氏は語る。「そのため、当社はIPセキュリティ・ソリューションで教師や校長そして学校理事会を支援できるよう細心の注意を払い、安全性とセキュリティ目標を達成している」。

また、アクリントン・アカデミーでは、Omnicastにより侵入検知システムも統合している。

世界輸送分野のセキュリティ市場は、2015年までに59億ドルに到達

BCCリサーチ社の報告によると、世界の輸送分野でのセキュリティ市場は、2010年に23億ドル以上になった。そして、5年間に20.4%成長を続けると、2015年に59億ドルにまで拡大すると予測している。

世界輸送分野のセキュリティ市場は、それぞれの技術により、映像監視と生体認証、入退技術とCBRN(化学、生物学、放射線学、核)検出技術、そして外周侵入検出の5分野に分類することができる。ビデオ監視分野は、2010年に11億ドルの市場規模が年成長11.6%を続けて、2015年に19億ドルに達すると予測されている。生体認証分野は、2010年に7億1000万ドルの市場規模が年成長33.26%を続けて、2015年に約30億ドルに達すると予測されている。入退管理分野は、2010年に3億3600万ドルの市場規模が年成長13.3%を続けて、2015年に6億2600万ドルに達すると予測されている。CBRN検出技術分野は、2010年に1億5900万ドルの市場規模が年成長17.5%を続けて、2015年に約3億5600万ドルに達すると予測されている。外周侵入検出分野は、2010年に3700万ドルの市場規模が年成長8.3%を続けて、2015年に約5500万ドルに達すると予測されている。

世界のセキュリティ市場は、2008年から2010年の経済危

機以降、確実な回復基調となっている。多くのセキュリティ事業や設備へのエンドユーザの投資が慎重な状況ではあるものの、セキュリティ産業全体は回復傾向にある。これにはいくつかの要因が寄与している。まず、アナログからIPおよびデジタル技術への市場移行が、市場力学を著しく変えた。次に、ソフトウェア開発がセキュリティ・ソリューションに情報化を付加した。アジア-太平洋地域の新興市場が、長期間にわたる重要な成長を確実にしている。

このような状況のほかに、メーカーとベンダがセキュリティ市場占有率獲得のため、積極的な協業と競争を強いられるというセキュリティ技術の世界規模での収束が増加するという市場力学が発生した。重要となる機会の範囲は、市場力学の変化と歩調を合わせることを認識されていることである。

本報告書の読者は、正確に判断することを可能にする重要な傾向を読むことができる。そのため、本報告書は、セキュリティ機器およびサービスのメーカーや販売会社そして供給会社にと価値がある。また、セキュリティ産業に従事するコンサルタントやシステム構築社、政府機関、研究機関、財務アナリストなどにとっても有用となる。

フロリダ州高速道路警備隊、パナソニック製携帯用映像システムを全車両に搭載

フロリダ州高速道路警備隊は、パナソニック製携帯用デジタル映像システムを同州の全車両に導入すると発表した。既に700台以上ある州警察官の車には、証拠収集と管理工程の合理化と役員の安全性を高めるためにパトロールの取り組みの一環として、デジタルビデオソリューションとパナソニックが装備されている。追加の300台は、この取り組みの一部として導入される。

携帯型デジタル映像は証拠保全および管理用に対応した完全なシステムで、4クラスのSDメモ리카ード10枚に高品質映像を2,500時間分まで収録する。携帯型デジタル映像システムは、フルHD映像を高速かつ安全に監査可能なファイルをストレージ用と無線伝送用に簡単かつ高速で圧縮する。全映像と音声データファイルをタグ付けて登録し、時間や日付、担当者や車両や事件などの項目で高速検索が可能である。すべてパナソニックソリューションと同様、携帯型デジタル映像システムは、車両振動し、頻繁な物理的衝撃に耐えることができる耐衝撃性、多機能マウントを採用して、高速道路警備

隊の厳しい仕様環境に耐えられる設計となっている。

「フロリダ州高速道路警備隊は、隊員の安全保持を強化すると同時に、問題ある運転者を画像に取り込み取り締まりの成果を高めるために、パナソニック製携帯型映像システムを導入した」とフロリダ州高速道路警備隊の取締役デイビッド・ブライヤトン・ジュニア氏は語り「我々は今、スタッフと機関そして委員会に利益をもたらす便利なツールを装備している」と話す。

デジタル映像ソリューションへの投資は、ハードウェアだけにとどまらない。トレーニングとバックオフィスなどの基盤も含まれている。迅速な処理を行うフロリダ高速道路警備隊を支援するため、米国パナソニック・ソリューションズ社は、車両への搭載、サーバの設定、トレーニング、および専門サービスを含む、包括的サポートを提供している。

「車載デジタル映像機器は特別でなく、公務執行のために必須だ」と米国パナソニック・ソリューションズ社公共部門営業担当副社長スコット・フランチャ氏は話す。

ONVIF、相互運用可能な製品の統合を簡素化

ONVIF(ネットワーク映像機器接続の規格標準化フォーラム)は、相互運用性仕様のユーザ体験の合理化を発表した。ユーザがシステム上の相互運用可能なソリューションをより簡単に識別できるようにするため、プロファイルの概念を開発する。

ONVIF仕様の特定のバージョンの広範な技術的知識を持たないエンドユーザは、このプロファイルにより、サポートされている機能を簡単に識別できるようになる。今後ユーザは、ONVIF2.0対応機器がONVIF1.0または将来導入される新バージョンに準拠しているクライアントと互換性があるかどうかを判断する必要がなくなる。さらに、ユーザは簡単にユニットとそれらのニーズに合ったソフトウェアとの間の特定機能の相互運用性を提供する適切なプロファイルを選択できるようになる。

「ONVIFは、IP相互運用仕様に関する後続バージョンと拡張性を引き続き進化させていくことになる」とONVIF運営委員会のジョナスアンダーソン会長は述べ、「プロファイルの概念により、エンドユーザやシステム構築企業は、IPベースのセキュリティシステムを構築時に、ONVIFの異なるバージョンに関係なく、準拠製品や機能セット間の互換性がわかるようになる」と語っている。

ONVIFは、2011年中に発表予定の入退管理システムとともに、物理的なIPベースのセキュリティ機器の世界標準規格を提供するという目標に焦点を当てている。なお、ビデオストレージや表示機器また映像解析などを規定しているONVIF2.0は、既に2010年後半に提供されていて、一部の製品が適合している。

NFCチップ出荷量は2015年に12億個まで拡大

イン-スタット社の調査によると、携帯機器による支払利用者数が2015年には3億7500万人以上に増大して、携帯機器支払方法の期間通信技術であるNFC(近距離無線通信規格)装置の需要も同様に成長する見込みである。同技術の採用により、NFCチップの世界市場での出荷量は2015年に12億個になると予測している。

NFCは、一定の至近距離にある機器間の通信技術である。NFCリンクは、すぐにセットアップすることができ、至近距離での少量データ通信ができる。この機能は他の無線技術と比較して独自のもので、携帯機器による支払いなど、少量データの高速度通信などのソリューションに能力が発揮されている。

「NFCチップのコスト低下によりNFC受信機が他のチップ機能と一体して、コストが大幅に下がり利益が出るようになった」と調査担当重役アレン・ネギー氏は言う。「一体化したチップの成長が、既に市場に供給されている技術を上乗せしたNFC受信機を支えていく。例えば、今では100%市場に浸透しているブルートゥース・ラジオをNFC受信機と統合することができ、OEM用にNFCを加えることができる」。

上記外に下記の内容が報告書に記載されている。

- 現在のNFC市場の中心は、支払機能からマーケティング機能に移行している。この移行により、小売業は、2011年後半に検証試験を開始し、2012年に屋外広告戦略に取り込むと見ている。
- NFCは2015年までに世界で30%普及すると予測している。
- NFCチップの世界市場への年間出荷は、2015年までに毎年129%成長すると予測している。

マレーシアで最も高いビル、赤外線投光器を設置

マレーシアのクアラルンプールにある最高層ビルのペトロナスツインタワーは、英国レイテック社製赤外線投光器により保護されている。本タワーは1998年から2004年まで世界最高層ビルで、現在でもツインビルとしては世界最高層である。本タワーは文化と商業の中心地であるクアラルンプールの優位性の象徴として、世界最高水準のセキュリティを設置して建設された。

レイテック社の機器は、照度は不足する時間帯のエントランス区域の安全を確保するために設置され、毎日1,500名のタワーへの通行者のCCTV画像を鮮明で高精度で供給するの

を支援している。RM100は150m先まで光量到達が可能で、コストを増大させずに安全性を高めるため、多くの照明機器なしに広範囲区域を監視することができる。

同社の照明機器は最先端の表面実装(SMT)LED技術を採用して、群を抜いた低消費電力と低ランニングコスト、10年以上の長寿命化とメンテナンスフリーという優れたパフォーマンスを実現している。同製品はさらに、高耐久性による耐衝撃性を有していることから、ペトロナスツインタワーで採用されている。

エベレストにMOBOTIX製カメラを設置

世界最高峰エベレスト山は、現在、2つの異なる事業で注目を集めている。正確な標高測定はネパール政府の国家事業で、最先端技術を用いて測定している。相当数のハイテク機器が「エベレスト・シェア2011」研究事業で使用されている。国際的な気候と環境モニタリング会議である「シェア」の一環として、エベレストでの環境に関する研究のための高地拠点と気象条件は、MOBOTIX製カメラを使用して記録化している。

これにより、標高測定結果は、あと2年で利用可能になる予定だが、「エベレスト・シェア2011」研究事業の実況映像は既に見ることができる。誰もが自宅にあるコンピュータでエベレスト山頂からの実況映像が見える。

MOBOTIXカメラで撮影できたことで、マイナス30℃温度での世界最高性能ウェブカメラの操作という実績で記録更新したことになる。これは、イタリアのベルガモにあるEV-K2-CNR科学委員会が、標高5,675mのカラパタール近くでM12型のMOBOTIXカメラを設置した。このカメラは現在、

標高8,848mのエベレストの美しい映像を記録している。映像は山頂付近の雲の動きを追跡できるように、画像を5分ごとに更新している。ウェブカメラはネパールの6時から18時までの時間帯（欧州中部:0時15分から12時15分）のみ動作している。

「エベレスト・シェア2011」研究事業は、国際的な「シェア」気候と環境モニタリング会議の一環として行われている。委員会は、山の北側と南西部面と西稜を含むエベレストの西側の素晴らしい眺めを提供するため、カメラ設置位置としてカラパタールを選択した。カメラは、5,050メートル地点にあるEV-K2-CNRピラミッド研究所/展望台に画像送信用として無線通信を使用している。

ここで映像解析し、その後詳細な評価のためにイタリアに送られる。研究者は、エベレストで世界最高拠点となる8,000mにある気象観測所で収集した温度や湿度、風速と風向、日光や降水量などの気象データと組み合わせて、この映像を使って気候変動と地球温暖化についての詳細を調査する。


ISO:9001



BT-860-2LMF



BT-860-2LM

BT-860 非常用ボタン

- 光操作型の無段階/二段階による埋込型/露出型スイッチ。アラーム記録
- マイクロスイッチ内蔵、オン/オフの見やすい表示
- メモリ機器付き、アラーム発報場所を表示
- 設置場所と調和のとれる優れたデザイン

緊張鉄条網用センサ・シリーズ



PS-780 PS-10

磁気シャッター・センサ



PR-620

Taiwan Security Net Co., Ltd.

No.4-46, Feng Jen Rd, Kao Tarn, Jen Wu, Kaohsiung, 814, Taiwan, R.O.C.
 Tel : +886-7-3721111 Fax : +886-7-3721114
 http : //www.sengate.com E-mail : service@sengate.com

キーマン・インタビュー

AXIS COMMUNICATIONS AB 営業担当副社長 ボディル・ソネツソン氏に聞く

スウェーデンに本社を構えるAXIS COMMUNICATIONS ABは、ネットワークカメラ世界市場のリーディング企業である。いくつかの調査会社のデータでは同市場で30%以上の占有率を誇る。その地位を確固たるものとするべく、新製品を続々と投入している。この勢いは日本法人においても同様で、2011年だけでも30種以上の新製品を市場投入している。

日本法人アクシスコミュニケーションズはAXIS Q1602/Eの記者発表を行ったが、この発表会に合わせて、AXIS COMMUNICATIONS AB営業担当副社長ボディル・ソネツソン氏が来日した。日本市場で積極的に新製品を提供する同社の今後の市場戦略について、ボディル・ソネツソン副社長にインタビューした。

編集部

問 世界市場での売上比率と今後の成長地域は？

答：当社は世界市場を北中南米、EMEA(欧州・中東・アフリカ)、APAC(アジア太平洋)の3つの地域に分けている。四半期ごとに数字は変動するが、それぞれ47～48%、42～43%、10%の割合だ。成長率は1年単位で見るとアジア太平洋が最も伸びている。当社の計画でもAPAC市場の成長率を伸ばしていく。日本市場のネットワークカメラの普及率は世界市場と同等だが、中国市場はこれからだ。しかし、いずれの市場でも急激な成長ではなく、S字曲線の成長を目指している。

問 ネットワークシステムへの移行の促進策は？

答：アナログシステムはこれまでの実績と伝統のある技術だが、新技術の導

入も重要だ。しかし、そこには懸念や不安も出てくる。特にセキュリティ分野ではその傾向が強い。しかし、HDの鮮明な映像を見れば、新技術の素晴らしさに気づくはずだ。そこでユーザの啓発活動を促進している。

問 メガピクセル・ネットワークカメラの画素数に対する見解は？

答：一部ではメガピクセル映像をHD映像と称しているが、HD規格はフレームレートや色調などを規定している。両者の違いを区別すべきだ。当社は3メガ・5メガピクセルのカメラを既に供給しているが、画素数よりも機能を充実させることに意味があると判断している。今回発表したQ1602に対して、ユーザが暗闇でも鮮明な映像を再現していることを評価しているのがその一例だ。

問 ONVIFをどのように活用するのか？

答：ONVIFを通じて当社が推進しているのは、アナログからネットワークへの移行であり、ユーザが使いやすい環境を提供することだ。当社はオープンスタンダードを理念として掲げているが、この考えはONVIFに300社以上が参加しているという賛同を得たニーズがあるからだ。日本のエンドユーザは標準化に好意的であり、品質が確保されていると考えている。

問 ワンストップ・ソリューションに関する戦略は？

答：カメラやエンコーダなどのハードウェア製品ラインナップを充実させて、エントリレベルからハイエンドレベルまでをカバーしている点では、ワンストップ・ソリューションを整えていると言え

る。また、システム構築企業やユーザの需要に応えるため、当社はカメラやエンコーダに関する技術を網羅する必要があると考えている。

問 オープンプラットフォームのVMSとの関係は？

答：当社は常に対等なパートナーシップ関係を重視している。世界各地のパートナー企業が880社以上存在する。また市場別に特別なアプリケーションがあるが、それらについて個別のアプリケーション開発を推進している。

問 競合として最も意識しているのはどこか？

答：当社が最も対抗意識を持っている対象は、監視カメラ市場そのものへの無関心、そしてアナログ市場だ。その他に競合企業が存在するが、これは望ましいことと考えている。競合企業の存在により製品開発や技術革新を進めることで市場が成長するからだ。

問 新しい潮流として注目していることは何か？

答：一例を挙げると、ストレージ搭載カメラはこれからの一つの潮流になると考えている。例えば、128GバイトのSDカードが登場すると、カメラ8台以下のネットワークシステムではストレージ搭載カメラに置き換えられる可能性が高くなるだろう。その先にクラウドコンピューティングがあるかもしれない。

問 クラウドコンピューティングに関する取り組みは？

答：2011年9月に来週で開催され

たASISのイベントで、IT分野のSI企業であるADT社やエスカイヤ社またスタンレイ社とともに、当社のネットワークカメラとクラウドコンピューティングとの組み合わせを協議した。具体的にはこれからだが、既に取り組んでいる。

問 セキュリティに対する意識が高くない日本市場に対する取り組みは？

答：セキュリティ意識が高くないことは、安全が保たれている日本の社会環境を示している、これはすばらしいことだ。しかし、ネットワークカメラはセキュリティ市場だけでなく、様々な用途での活用を提案していくことが重要になるのではないか。例えば、防災対策用としての広域監視でネットカメラを活用することもあるだろう。そのために、IP66



AXIS COMMUNICATIONS AB
営業担当副社長
ポティル・ソネッソン氏

規格以上に対応する製品を提供している。また、スウェーデンで実績のあるソリューションだが、プライバシーに配慮したサーマルカメラによる進入禁止区域の管理などもある。このように、当社ではネットワークカメラの活用範囲はさらに広がると考えている。 **AXIS**



AXIS Q1602シリーズ

AXIS Q1602シリーズは屋内用モデルのAXIS Q1602と屋外型モデルのAXIS Q1602-Eの2機種を用意している。

同シリーズは、新開発の「Lightfinder」技術による超高感度センサとノイズ除去機能を搭載し、0.05ルクスでも鮮明なカラー映像を配信することができる。白黒映像の場合は0.008ルクスという超低照度に対応している。


その他に下記の機能を装備している。

- 拡張D1解像度 (756 × 576ピクセル)
- H.264対応
- PoE給電
- 動体検知
- 音声検知

なお、屋外型モデルのAXIS Q1602-Eは、IP66/NEMA規格4X対応の防塵防水性能とIK10耐衝撃性能を備えている。またマイナス40℃の超低温環境でも動作する。



セキュリティ産業 10年後の 隆盛と変貌



2001年9月11日、テロリストグループのアルカイダが米国の4ヵ所で自爆テロを起こし、3,000人近くの人命が奪われ、数十億ドルの損害が生じ、その後数ヵ月さらには数年にわたり、世界は極限のショック状態から立ち直れなかった。経済、政治的な問題は別として、このテロ攻撃がもたらした重要な影響の1つが、全世界の人口の大部分の生活にあまりにも大きな変化が生じたことだ。募る恐怖心から、そして、様々な思惑から、セキュリティへの大規模な投資が喚起された。9・11テロ攻撃から10年が経過した今日、セキュリティは数十億ドル規模の、不況にも負けない、大いに競争力のある業界へと成長し、様々な形で変貌を遂げつつある。官民両方からの資金提供によって体力をつけたセキュリティ業界は、2000年代の初め、革新的な新技術の開発に成功した。2008年に訪れた景気低迷によりベンチャー・キャピタルの研究開発への投資は大きく縮小されたものの、技術革新が終焉を迎えることはなかった。インターネットプロトコル(IP)を利用したシステムが出現し、加速度的に採用されるようになったことで、エンドユーザに様々な利点をもたらす新たな可能性が生まれ、この業界の新旧の主力企業は、セキュリティ・システム、ビル、その他様々なシステムを同時に管理制御でき、さらに使いやすく、高機能のプラットフォームの実現に期待を寄せている。

a&s International

従来由国家による攻撃とは異なるが、多分に戦争を思い起こさせる行動だったという点で9・11テロ攻撃は重大な意味を持つとキャタリスト・パートナーズ代表のデビッド・オリブ氏は語る。「経済と一般大衆のセキュリティ感覚に極めて深い衝撃を与えた。人類が初めて月面に足を踏み下ろした時のことを誰もが覚えているように、この惨劇は生涯忘れられない出来事だ」。

一連のテロ攻撃の直接的効果として、発生の約1年後の2002年11月、米国土安全保障省(DHS)が設立された。DHSには数百億ドルの予算が割り当てられ、主に緊急救急隊と災害対策に配分された。その一方で、多額の予算が政府主導の事業や研究開発資金にも投下された。2000年代初頭、ベンチャ・キャピタルや様々な政府機関が研究開発につき込んだリソースにより、さらに多くの技術革新が実現した。こうした技術革新は、既存の技術を米国本土の安全保障に利用することが狙いだったとフロスト&サリバンプ物理的セキュリティ研究チーム・リーダーのディリップ・サランガン氏は語る。「映像内容解析(VCA)、デジタル・ビデオ・レコーダ(DVR)、IPを利用したセキュリティ・システムなど、多くの新しいコンセプトや製品が登場した」。

DHSの科学技術総局は、その設立当初から、様々なハイテク需要を満たすべく、民間部門に業務を委託してきた。当時、同局を率いていたのが退役米海軍少将ジェイ・コーヘン氏で、国防総省のプロセスをいくつか導入して需要を見極め、民間部門に公告し、セキュリティ技術の開発に資金を提供したと、オリブ氏は言う。「生化学検出器、センサ、生体認証システムを始め

とする多様な技術の開発と、容易な情報共有を実現するためのデータベースの統合にリソースを投入した。商業市場が見込め

る技術を探し求めたという点で、DHSはこれらの投資において極めて戦略的だった」。

過去10年間、政府機関間での意思疎通は、削減される予算に優先順位をつける取り組みの中で著しく高まったとモニカ・ヘイル&アソシエイツ社最高経営責任者モニカ・ヘイル氏は語る。「シナリオの違いを超えて確実に適用可能な技術であれば、今後ますます成長が期待できる」。

成熟期にある技術

前述の期間に開発された技術の多くは、商業化という点で大きく成熟してきた。例えば、VCAは10年前まではほとんど理解されない技術だったとサランガン氏は言う。「現在、VCAという手法は、エンドユーザの理解を得ている。エンドユーザはVCAの能力と限界を認識しており、明確な目的をもって使用すれば、企業や団体にとって価値ある技術になることを理解している」。

DHSなどの政府機関からの資金提供が、物理的セキュリティ市場の確立、発展に重要な役割を果たしてきたことは間違いないとIMSリサーチ社映像監視



モニカ・ヘイル&アソシエイツ社
最高経営責任者 モニカ・ヘイル氏



IMSリサーチ社映像監視&VCA研究
グループ
主席アナリスト ジョン・クロプリ氏

&VCA研究グループ主席アナリストのジョン・クロプリ氏は語る。「教育、小売、輸送交通を除いた2010年の政府支出は、セキュリティやビジネス情報用途のVCAの世界市場の約15パーセントを占めるまでになった」。

こうした事実にもかかわらず、映像内容解析手法の市場は、多くの人が期待するほどの急速な成長を遂げていない。その理由として設置の問題、高い誤報率、明確な市場教育の欠如、世界的な経済低迷などをクロプリ氏は挙げている。「世界の経済環境の好転に伴い、この解析手法を提供する企業は、これらの問題に対処すべく、懸命な取り組みを見せている。企業がこうした努力を重ねることにより、VCA市場は着実に成長していくものと予測されている。継続した資金提供が、この市場の成長を確実に支えている」。

もう1つの例として挙げられるのが、IPを利用したセキュリティ・システムの普及である。ネットワーク化技術の導入は、近年のセキュリティ・システムにおける最も革新的な要素だとS2セキュリティ社最高経営責任者ジョン・モス氏は言う。全てをネットワーク上で

実行することで、データ伝送を単純化し、アナログシステムで必要な基盤投資費用は全て不要になるとサラングン氏は言う。「間違いなく、多くの潜在的可能性を秘めた市場だ。大部分は政府機関や必要不可欠なインフラ整備を行う企業向けだが、用途の一部は、大規模な組織にも利点があり、商業市場で使用することにも大きな意味がある」。

統合化

IPを利用したセキュリティ・ソリューションの登場により、統合化と相互運用性は大いに向上した。セキュリティ・システムとビル内の他のシステムとの統合は、同じプロトコルと共通プラットフォームが使用できるようになったことから容易になりつつあるとサラングン氏は言う。

これは、セキュリティ・システムの導入方法に大きな変革をもたらした。従来から、ビルの自動化、冷暖房空調設備 (HVAC)、その他のシステムは、常に最初からビルの設計に取り込まれ、一体化されており、設計のごく初期の段階から全体設計の一部になっている。ほとんどの場合、セキュリティは後回しにされ、ビルの建設後まで忘れられる存在になっていたとサラングン氏は言う。「今では、セキュリティはビルの自動化と同様に優先して考慮されるようになっている。施主は、セキュリティ・システムを初期設計に組み込み、ビルの建設中に導入するのが正解であることを実感し始めている」。

こうしたやり方が一般化するにはまだ時間がかかると思われるが、これは過去数年間で大きく変わったことの1つであり、今後も勢いを増し続けるだろうとサラングン氏は言う。

新規参入企業

ビルの自動化を担う企業は、セキュリティ面でより重要な役割を果たしつつある。これには明確な理由がいくつかあるが、その1つが、セキュリティをビル自動化システムに組み込むことで、顧客により大きな価値をもたらすことができ、事業戦略にうまく適合するからだ。

9・11テロ攻撃の発生後、多くのエンドユーザが、過去に類のない状況に直面した。すなわち、自社のビルや事業でこれまでにないレベルのセキュリティを実現しなければならなかったとジョンソン・コントロールズ社 北米セキュリティ&火災対策セールス担当取締役アンドレ・グレコ氏は語る。「一般に、顧客は、正式な権限を持つ一部の人間を除いて、一定のエリアやビル内に誰も立ち入らないことを確実に把握できるところまでセキュリティレベルの引き上げを望んでいた。高層ビルや多数のテナントが入居する環境では、回転ドアの必要性が大いに高まった。また、特に大都市圏において、定式化された来訪者管理プロセスやビル入館者の徹底した身元調査が、より一層要求されるようになった」

その一方で、広く一般に開放され、多くの人々が自由に出入りできる区域の安全確保がますます要求されるようになっていく。以前は、セキュリティ・システムは、窃盗や蛮行など軽犯罪に対処することに主眼を置いていたとオリブ氏は言う。「新たなテロの脅威が絶えない現在、セキュリティを設ける必要はないと思われる区域でも、こうした従来にない要求を満たすため、新たな解決策が必要になってきた」。

ビルの自動化は建物を異なる視点か

ら見ようとしている。「統合化が大きな話題になった7、8年前、ビル内の低電圧機器類は、それが極めて重要なものかどうかを問わず、ほぼ全てがネットワーク化され始めた。そこには、IPが急速に普及していく状況が見られた」とグレコ氏は語っている。

いくつかの変化

情報技術 (IT) と物理的セキュリティの融合がもたらす1つの効果は、心理の変化である。企業によっては、ネットワークカメラを購入するのは物理的セキュリティ担当部門だが、IT部門が購入の意思決定を下すのが一般的になりつつあるとモス氏は言う。「これら2つの部門は、必要以上にかけ離れた存在ではない。30年前なら、セキュリティ担当者のほとんどが警察関係出身者だったが、今ではIT分野の出身者が物理的セキュリティを受け持っている」。

また、ITの世界で名を馳せるようになった統合サービス提供企業が、この業界に貢献してきた。これらの企業は、IPを利用した映像監視の分野で、設置業者とエンドユーザに支援を提供してきた。「これらの統合サービス企業は、ネットワークを使用して映像伝送を行い、ハードディスク・ベースのデータ保存ソリューションを使用して映像を保存することに問題はないが、映像アプリケーションには冗長性を果たせることが必要なことをエンドユーザに教えている。さらに、映像は既に定着した情報であり、データのタイプが違うだけにすぎないことをユーザー企業が理解できるよう手助けしてきた。IPへの依存度が高まるにつれ、ますますIT担当部門の領域に入ろうとしており、シスコ社やアニクスタ社を始めとする各社が、こうし

た視点からITコミュニティを支援してきた」とグレコ氏は言う。

セキュリティ業界は、他の業界に比べて移行の歩みが遅いが、それでもこの10年間で大きな変化を遂げてきた。しかし、こうした変化が9・11テロにより引き起こされたものなのか、9・11テロだけの影響を受けたものなのかを判断するのは難しいとモス氏は言う。「私がこの業界で目の当たりにしてきた大部分の変化は、経済一般の変化に関係している。従って、この業界における変化の速度は、ITが物理的セキュリティに及ぼしてきた影響もあり、平均を少し上回っているかもしれない。総じて、変化の速度は9・11テロが原因とは言えない」。

意識向上

従来を遙かに上回る脅威が存在する現在、我々は極めて危険な時代に生きている。生物学や化学の知識が全くない子供たちが、インターネットで検索して、極めて危険な生化学試薬を作るレシピを見つけることもできるとヘイル氏は言う。「子供たちは、ほとんどお金を使わずにこうした試薬を買ったり、作ったりできるため、一個人が街に出て、大勢の人々に計り知れない損害を与えることも可能な状況が作り出されてきた。こうした状況が、社会からはみ出した危険な人物や急進派の制御を困難にしている。世界は、従来にも増して危険な場所になってきている。最近起きたオスロの惨劇はその一例に過ぎない」。

ノルウェー当局がもっと油断なく注意していればテロ攻撃は防げたはずだと、ヴァージニア・ポリテクニク・インスティテュート州立大学ジョシュア・シナ

イ准教授は語る。「この人物の存在を過激派として当局に通告し、データ・マイニングや挙動分析を通じて身元を突き止めておくべきだった。特定しておけば、この人物を潜在的な脅威としてマークし、法的な手続きを踏んで適正に監視することもできたはずだ」。

こうした脅威の増大によって人々は、特に旅行中に以前にも増して自分達の身の回りに意識を向けるようになってきた。政府関係機関は、公衆に対して異常事態に気付いた時は当局に知らせるよう一貫して指導を続けている。常時音声案内と映像により注意を喚起し続けることで、人々は常に自分たちの身の回りを意識するようになっていくとグレコ氏は言う。「何かを目撃したら、必ずそれを伝えなければならないという意識を高める。そのことだけを目的に、多くの活動を行っているが、こうした取り組みは、人々が周囲の出来事に無関心にならないよう、そして10年前の出来事を忘れないようにするための働きかけだ。我々は、潜在的な危険に対して常に意識を高めておく必要がある」。

さらに、地球規模の通信の進歩に伴い、あらゆる重大な出来事が、ほぼ漏れなく人々に知られるようになっていく。「我々は、ニューメディアを通じた相互な繋がりを特徴とするグローバル化が進んだ、ますます開放された社会に生きている」とボッシュ・セキュリティ・システムズ取締役会ゲルト・ファン・イペレン会長は語る。「国内の災害や暴動を伴う革命、テロ攻撃が発生した時は、いつでも全世界がそのニュースをいち早く知ることになる。世界中の人々が、マスメディアが提供する中継映像を見ている」。

現在、自国の安全保障は、9・11以

前とは異なり、個人の責任と見なされる傾向が高まっているとオリーブ氏は言う。「しかし、自分達の生命や生活を守るために何ができるかについては、より多くのことを指導していく必要がある。一般大衆は、こうしたテロ攻撃への耐力を強めているが、まだ必要な水準には至っていない」。

まだ多くの企業が、セキュリティを不要な支出と見なしているのは残念なことだ。こうした企業は、セキュリティが数四半期のうちに回収可能な投資だという現実を把握していないと、投資&セキュリティ&リスク管理コンサルティング企業ロマン&アソシエイツ社最高経営責任者アンソニー・ロマン氏は語る。「セキュリティ技術とセキュリティ部門の両方が、事件や事故、犯罪や社内窃盗の経済的損失の査定を受け持つリスク管理部門とうまく連携していれば、保険金請求や不法行為の賠償責任、企業ブランドに与える損害や規制当局が課す罰金に関して、経費を節減できると思われる」。

低迷する経済の影響

セキュリティ業界はこの10年間で著しい成長を遂げた。2008年の景気後退からの緩慢な回復基調にもかかわらず、セキュリティ関連電子機器市場は、スローペースではあったが伸び続けたとサランガン氏は言う。「顧客のセキュリティ設備投資が同水準で推移しなかったことは明らかだが、過去3年以上、この業界は年間5～6%の伸び率を維持している。他の業界と比べて、我々の業界は極めて健全で、速やかな回復を実証しつつある」とイペレン氏は言う。

セキュリティ業界は「不況知らず」と

見られることが多いが、これは神話に過ぎない。不況知らずの業界など有り得ないとサラングン氏は言う。「予算が削減され、もはや購入の余裕などない場合、顧客は単純に購入しないだけだ。セキュリティ業界は、景気低迷にもかかわらず緩やかな伸びを見せていたが、実際の姿は不況知らずと言えるようなものではなかった」。

それにもかかわらず、他国と比較してテロの脅威が大きい国々では、政府のセキュリティへの投資は多額に及んでいるとシナイ氏は言う。「これらの国々では、テロリストに対抗するための機器や公衆安全機器類を大量に購入している。技術系企業にとって新たな市場であり、大きなビジネス機会になっている」。

技術革新への取り組み

景気後退にも負けずに成長を続けることができている理由の1つは、エンドユーザにより多くの価値をもたらす始めることができたことだ。「この業界は、技術的にも商業的にも革新的であり、投資収益率という形で見返りのある優れた製品を、低コストで作りに出してきた。購入者が新システムに投資し続けている理由はここにある」とメモリ・ビジネス・インテリジェンス社アラン・マッコル取締役は準備した原稿を読み上げつつ語った。「今年、IPネットワーク製品が、予測された成長率35%を上回った理由はここにある。IPネットワーク製品に主眼を置いてきた企業は市場シェアを伸ばし、収益性も向上している」。

多くの大企業が景気後退の大きな打撃を受けたが、その一方で、セキュリティ業界では多くの新興企業や中小企

業が成長を維持することができたとサラングン氏は言う。「さらに、IT分野の多くの企業が過去数年間、良好な業績を残している。このように、大企業が痛手を被ったものの、主にこれら中小企業やIT関連企業が成長したことにより帳消しになっている。これら中小企業は、セキュリティ業界で大きな成長を遂げている。過去数年間、ITばかりでなく、ビルの自動化やビル管理サービスを提供する企業もセキュリティ分野で収益を得て、かなり良好な伸びを見せた」。

これらの新規参入者が有利になるのは、セキュリティを超える何かを経験していることだ。例えば、ジョンソン・コントロールズ社では景気後退の影響は非常に小さかった。過去3年間、顧客は効率と生産性を高める一方で、経費削減を図れるソリューションを探し求めてきた。「堅調な投資収益率モデルを確保できていることで、新規参入者は引き続き投資し続けることの意味を認めている」とグレコ氏は言う。

大手企業は、セキュリティを成長の機会と捉えており、より多くの価値を顧客に提供できるよう、製品ラインを拡張しようとしている。「これら大手企業は、圧倒的な市場占有率を獲得

している企業が存在せず、目覚ましい成長を遂げつつあるセキュリティ業界で、自社製品ラインナップを拡張していくだけのリソースを備えている」とグレコ氏は言う。

こうした事実が、この業界の技術革新を後押ししている。一般論だが、大手企業は自社製品を技術革新しないとモス氏は言う。「中小企業や個人企業は、自社製品の技術革新に長けているがリソースは少ない。過去30年間の流れを見ると、起業家たちが革新的な企業や製品を生みだし、最終的には、これらの企業や製品を成長させるための資本と基盤を持つ大手企業が買収するという実情がある」。

ベンチャ・キャピタルの支出の減少が主な原因で、研究開発に投下する資金が少なくなった結果、技術革新はペースダウンしているが、まったく停止している訳ではない。「映像監視システム(VMS)のような製品が一般化しているが、監視制御システムを運営する優れた品質の管理ソフトウェアには大きな市場が残されている」とサラング



S2セキュリティ社
最高経営責任者 ジョン・モス氏



ヴァージニア・ポリテクニク・イン
スティテュート州立大学
准教授 ジョシュア・シナイ氏

ン氏は言う。「この景気低迷時期を通じて達成された技術革新の例をもう1つ挙げるとすれば、物理的セキュリティ情報管理 (PSIM) である。これは、明らかにエンドユーザに大きな価値をもたらす技術革新だ」。

市場予測

セキュリティ業界にとって、次の大きな課題は、より効率的でシームレスな統合になるだろう。「今後数年間に期待できる大きな技術革新は、あらゆる製品を1つのソリューションに組み込むことのできるソフトウェア製品といったソリューションだ。こうした製品が、今後数年以内に登場することは間違いない」とサランガン氏は言う。

セキュリティが複数のシステムを1つのプラットフォームに統合する方向に向かっているのは間違いなく、システム構築者は、最終的にエンドユーザに利益を与える製品を統合することの方が容易なことに気付くだろうとグレコ氏も同じ意見だ。「孤立したシステムや分散化した技術は、オープン・プラットフォームを基底とする製品を企業が作り続けていく限り、急速に消えていく」。

こうしたことが実現するには、越えなければならないハードルがいくつもある。専有技術を使用し、統合化を実現するためにアプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) やソフトウェア開発キット (SDK) を他の企業と共有する用意のない企業が未だに存在するとグレコ氏は言う。「しかし、3年前の遅々たる進行に比べれば、ずっとペースアップしていることは間違いない。これは、システムの1つのプラットフォームへの統合を期待する顧客の要求が後押ししているからだ。IT業界

は、この25年間に統合化を進めており、セキュリティのIT依存度が増すにつれ、こうした統合化はますます重要度を増していくだろう」。

セキュリティ

ティ・アプリケーションを収容するクラウド・コンピューティングは、今後2～5年で成熟期を迎えるだろうとグレコ氏は言う。「情報セキュリティに関する懸念はあるものの、現状の課題を解決し、市場は成熟期に入るだろう。1つの大きな利点は、現場でストレージを維持するのではなく、データをクラウドに保存することができる点だ」。

アイデンティティ管理も未だに一般的になっていない技術の1つだが、5～10年後にはごくありふれた技術になるものと思われる。「アイデンティティ管理は、エンドユーザが事業運営で大いに利用できるコンセプトで、入退管理システムの設置やアップグレードの際に広く導入されるようになるだろう」とグレコ氏は言う。「予め設定した方針に従って人材情報を扱い、カード保有者の入退履歴を作成し、入退管理データベースにエクスポートするソフトウェアを提供する企業が少数ながら存在する。このソフトウェアの利点は、入退管理データベースの設定を手動で行ったり、入退管理データベースの変更を



ボッシュ・セキュリティ・システムズ
取締役会
会長 ゲルト・ファン・イペレン氏



ロマン&アソシエイツ社
最高経営責任者 アンソニー・ロマン氏

管理したりする必要が全くなくなることだ。人材情報とポリシー・エンジンそして入退管理の統合は、いずれ一般的になるだろう」。

何よりも、9・11テロ事件により、それ以前は分散や拡散していた業界の重みが増し、業界が注目されるようになったとオリーブ氏は言う。今後の発展に目を向けると、分散システムの融合と統合化が継続されるだろう。これは、明らかにエンドユーザが求めている姿である。

統合化し相互運用性が確保された総合的なソリューションは、業界がさらに進化し、発展した姿であるとイペレン氏は言う。「火災検知システムと避難システムの統合を例にとってみよう。この組み合わせは、この数年間市場需要の高まりを見せているが、これには明確な理由がある。2つのシステムが互いを強め合い、安全とセキュリティを強化する。これは、必ずしも、製品の価格が上がったり、使いにくくなったりすることを意味するものではない」。

secutech

International Security Expo

第15回電子セキュリティ・情報セキュリティ・消防防災の国際展示&会議

セキュリティ企業を 牽引する展示会

貴社の実力を

世界のバイヤとOEM募集企業に印象付ける恰好の機会

2012年4月18日～20日

台湾 台北南港展示会場

www.secutech.com

2012年概要:

規模: 35,873平方m

出展社数: 世界20カ国560社(見込)

海外来場者: 100カ国26,000名(見込)

セミナー数: 115セッション(アジアで最大級のセミナー)

200社が展示会場の75%を既に予約済みです。
好条件のブースの予約はお急ぎください!


お問い合わせは下記までどうぞ

ASJ社 担当:小森堅司

Tel: 03-6206-0448

Fax: 03-6206-0452

E-mail: komori@asj-corp.jp

 messe frankfurt

安心を保証する ホテルのセキュ

ホテル経営者と事業主にとって、近年発生した一連の事件やテロ攻撃は、自らが経営するホテルにおけるセキュリティへの配慮と設備の再検討の必要性を厳粛に思い起こさせる。

Tophotelprojects.comによると、2010年3月以降、世界の一流ホテルや高級ホテルに約2,000億ドルが投資されている。

現在のホテルは、ビル自動化技術、省エネ技術を用いて建設しており、建設コストの約10%をセキュリティに費やしている。セキュリティを総合ビル管理に統合する流れは、かつてないほど運営が複雑化する一方で、即時の対応が求められていることを示している。

休暇やビジネスで訪れた宿泊客に安全で快適な滞在を保証することは、世界中のホテルで最優先事項となっているが、その一方で、技術上の問題、技

リティと管理

術以外の問題が数多く存在し、適切な対応と平衡が必要とされている。本特集では、世界各地のホテルにおける入退管理、映像監視ソリューションの要件、ホテル管理の考え方と懸案事項、さらには、総合的なホテルやビル管理において、セキュリティが省エネや費用削減にどのような形で貢献しているかを探る。

これまで、ホテルのセキュリティ需要は、いくつかの明白な理由から、ホテル経営者が話題にすることを躊躇している厄介な問題だった。しかし、ソリューション・プロバイダや構築者は、限られた予算の中で技術的に利用可能なサービス、投資収益率 (ROI) を最適化することにより、さらに提供可能なサービスを把握し提供することで、ホテル経営者が実際に探し求めているものが何かを見つけ出す必要がある。

a&s International



世界の接客セキュリティ市場は、観光旅行とビジネス旅行の需要の増大を受けて成長してきたとヴィンカード・エルセーフ社（アッサ・アプロイ社の系列企業）の国際事業開発担当副社長ルネ・ヴェナス氏は語る。ホテルは、自らが掲げる「開放政策」により、急速にテロ攻撃や軽犯罪の標的になりつつあることから、市場規模は急激に拡大している。英国BSRIA（British Building Services Research and Information Association）の2010～2013年の予測によると、入退管理が総建設費の約5%、映像監視が4%、侵入検知が1%を占めている（数値は全て平均値）。

英国を例にとると、市場の成熟度は高いとADTファイヤ&セキュリティ社プロダクト・マーケティング・マネージャ、ピート・スタントン氏は語る。「既に旧来型のシステムを設置しているが、既存システムに新しい技術を導入し、ホテルのセキュリティ問題に対応するという統合的アプローチの需要は増大している」。

アジアのような新興市場では潜在的な可能性はさらに大きい。「当社が把握しているだけでも、アジアで少なくとも70

～80のホテル事業が進行中だ」とアデムコ・ファーイースト社セールス&マーケティング担当取締役パトリック・リム氏は語る。「さらに、既存の老舗ホテルも生まれ変わることを望んでいる」とパン・パシフィック・ホテルズ・グループIT担当元副社長マーク・ファンコート氏も同意見だ。「アジアは接客業の成長株であり、接客事業に大きな投資をしている。地域ブランドと国際ブランドのどちらも、世界中のどの地域よりも成長に余念がない」。

求めるソリューション

「通常、技術への投資は、宿泊客の快適さ、安全と安心、エネルギー効率とコスト管理という4つの要素を念頭に置いて検討する」とシーメンス・ビルディング・テクノロジー社シーメンス・ワン・ホスピタリティ市場開発委員会代表マイケル・ハートマン氏は語る。「これらの全てが、今日のホテルの成功に必要な不可欠な要素だ。ホテルが、これらの要素の1つに対処するために利用可能な技術に着目する時、他の3つの要素との関係もまた方程式の1つの要素になる」。

ホテル建設の資金源は、ベンダの視

点から明確に理解されないことが多い。「ホテルの場合、オーナーが経営者ではないことが多い」とファンコート氏は説明する。「資金調達が必要な複数の分野を検討する際、システム構築への投資を確保するためオーナーに働きかけるのは至難の業だ。融合とIPベースの技術への取り組みは、利点をよく理解していないことから、さらに難題となっている。今でも多くのビルが、同軸ケーブルを張りめぐらせた旧式の技術を使用して建設されているのを見るのは決して珍しくないが、こうしたことが、監視ソリューションの柔軟性や能力そして管理の容易性に制限を加えている」。

全体的なシステム構築を考えるホテルが増えているのは喜ばしいことだ。こうしたホテルでは、部屋の自動化とビルのソリューションを総合的に考え、IPベースのシステムを採用して、4つの重要な懸念事項によりうまく対応しようとしているとハートマン氏は言う。「IPベースの指向を強める共通基盤の採用により、真に対話的なシステムが実現されている」。

入退管理と映像監視は、ホテルのセキュリティ管理を実現するための重要なシステムだ。以前に比べ、より多くのシステムの統合が可能になっているとスタントン氏は言う。「ホテルの部屋の施錠を、事務管理部門の入退管理と映像監視システムに統合するのが潮流になりつつある」とリム氏は言う。「これまで、映像監視とカードを使用したバックヤードの入退と客室の管理システムは、それぞれ別個に行われていたため、管理上の問題が生じ、従業員はカードを何枚も持ち歩かなければならない場合もあった。現在、IPベースの館内放送システムまでもが統合され、火災などの



ヴィンカード・エルセーフ社
世界事業開発担当副社長
ルネ・ヴェナス氏



アデムコ・ファーイースト社
セールス&マーケティング担当
取締役 パトリック・リム氏



パン・パシフィック・
ホテルズ・グループ
IT担当元副社長
マーク・ファンコート氏

緊急時の誘導はもちろん、イベント、プロモーションの案内にも、音声による一斉放送とLED画面へのデジタル・メッセージ表示が可能だ。現在、セキュリティ通信システムは、セキュリティ以外にも様々な業務で使うことができる」。

ソリューションで必要なその他の設備として、メガピクセル・カメラ、映像解析システム、暗号化オフライン施錠、電子パッド施錠などがある。「高解像度技術を始めとするIPベースの製品の利用は、目に見えて伸びている」とスタントン氏は言う。

入退管理

宿泊客と来訪者そして従業員と外部業者の所在追跡管理は、無線ICタグ(RFID)などの先進技術により、より正確で安全になっている。「従来の磁気ストライプ電子錠からRFIDを利用した非接触カード技術に移行してきた。宿泊客用カードと従業員用カードの両方で、二重三重のセキュリティを確保し、複製を防止することができるからだ」とヴェナス氏は言う。「RFIDにより従業員を追跡管理し、管理の質と効率を高めることができる。現在では、RFIDを利用することで、カード上に複数のアプリケーションを搭載する基盤を実現し、より安全な環境でより良い付加価値サービスを生み出し、宿泊客に提供することができる」。

全ての電子ロックを中央のサーバに接続する目的でこうした無線技術を使用し、ホテル全体の管理が容易になっているとヴェナス氏は言う。「部屋のドアや廊下、会議室や駐車場、裏の通路や事務室のドアの全てを中央のサーバに無線接続できるので、マスターカー



ロビーや廊下そしてエレベータなどに設置した映像監視システムと、客室やオフィスの入退管理システムが統合されつつある。

ドの抹消、宿泊客と従業員の出入パラメータの変更、電子ロック状態の遠隔通知が一つのプラットフォーム上で行える」。

近年、近距離無線通信(NFC)でも大きな進歩があった。NFC対応のスマートフォンをルームカードとして使用することで、チェックインの能率を向上させ、ルームカードの置き忘れという頭痛の種を最小限に抑えることができる。業界専門家は、こうした進展はまだ初期段階であり、普及するかどうかはスマートフォン自体がどの程度普及するかにかかっていると考えている。「スマートフォンは、既に画面ロックなどのセキュリティ機能を搭載しており、ロック解除には所有者のパスワードを入力する必要がある」とNXPセミコンダクタ社 識別システム営業担当副社長ステーブ・オーウェン氏は語る。「セキュリティ機能を搭載していない標準的なルームカードの場合、ドアに対応す

るカードを持っていれば、誰でも入室できてしまう。スマートフォンを使用することにより、少なくとも一段階上のセキュリティを実現できる」。

「個人の携帯機器をルームカードとして使用することで、コストの削減と宿泊客の快適さの両面で付加価値をもたらすことができる」とハートマン氏は言う。「200程度の部屋数の一般的なホテルでは、年間12,000枚ものプラスチック製ルームカードを使用することになる。携帯機器を使用すれば、ルームカードの置き忘れのリスクが減少する。宿泊客は、フロントまで行かずにチェックイン、チェックアウトができ、カード紛失時の追加料金を課されることもない」。このタイプの入退管理では、スマートフォンとカード読取装置をNFC対応にする必要があるため、ホテル経営者には初期投資が重要な検討事項となる。

2010年代ではNFC対応スマートフォンはますます重要な役割を果たすこ

とになるとヴァインカード社は予測している。このタイプの入退管理をホテルで使用する最初のプロジェクトは、2010年の終わりに実際に開始されたとヴェナス氏は言う。「この技術は、登録や署名プロセスから安全な取引と証明書の発行、データの暗号化と伝送、暗号化されたルームカードの除去、ユーザ視点での運用性に至るまで、携帯応用という観点から、最上位のセキュリティ層を使用して開発を進めてきた。

ただ一つ欠点がある。それはITの視点から危機管理を行っていることだ。「宿泊客の携帯機器からホテルのネットワークへと簡単にウィルス感染する可能性があるばかりでなく、ウィルスがネットワークに接続した他の宿泊客全員に影響を及ぼすと、どうなるのだろうか。誰が損害賠償責任を負うのだろうか」とハートマン氏は警鐘を鳴らす。「同様

に、ホテルは所有するマルチメディア・チャンネルを通じて、どのような情報内容を提供するかを決定することができる一方、宿泊客が自分の機器を使用してオンライン接続したとたん、ホテルはその自律制御を失うことになる。コンテンツの所有が経営者の手から離れてしまう」。

映像監視

監視カメラと監視システムは、イベント発生時に証拠を提供できることから、損害賠償責任の問題に対応するため極めて重要な存在となっている。標準的な映像監視装置は、ロビーや廊下そしてエレベータなど戦略上の「急所」に集中して設置されている。また、会議室やスポーツクラブ、駐車場などの公共区域での適正な監視を維持する取り組みもなされている。「廊下や公共区域での映像監視を適切な入退管理と組み合わせれば、不都合な行動や事件の防止に役立つ」とスタントン氏は言う。

特にパン/チルト/ズーム (PTZ) カメラが必要とされている。PTZカメラは自由度が高いため、少ない台数のカメラで区域を監視することができる。宿泊客は常に見られているという感覚を持つことがなく、快適さが増す。

多くの場合、ホテル経営者は水平区域

より垂直区域の方を監視対象にしたがるとアクシスコミュニケーションズ社アジア地域担当マネージャのナフス・ジャスマニ氏は語る。「例えば階段や廊下だ。これらの場所では、従来型の横長形式では視野の大部分、特に画像の両側が余分なスペースになってしまうため、最適なソリューションにはならない。解像度と帯域幅そして記憶容量の無駄遣いになる」。

ホテルプロジェクトでは、駐車場や片側通廊などの暗い場所や解放区域では、低照明対応のメガピクセル・カメラを使用するのが標準になりつつあるとVivotek社ブランド事業部門取締役ウィリアム・クウ氏は語る。「ナンバー・プレート自動認識 (ALPR) は、ホテルの垂直区域監視用として採用が増えている技術の一つで、車両追跡管理と周辺監視を強化することができる」とスタントン氏は言う。「ALPRは、VIPサービスに適用することができる。警備上の難題を伴う顧客は、車のナンバー・プレートを事前に登録しておけば、滞在中の支援を強化することができる」。ALPRを使用してライブ映像監視を行い、宿泊客の乗車、降車時の安全を確保し、タクシーやピックアップカーに物を置き忘れた場合は、車両追跡監視を行うことができる。顔認識などの映像内容解析機能は、今のところほとんどのケースで不要である。

経営者の心理

ホテル経営は、グループの戦略と予算の制約、そして現地の規制措置による束縛が大きい。「元来、ホテル市場は極めて世界的なもので、巨大な多国籍企業とこれらからの要求により動かされている」とヴェナス氏は見ている。



ADTファイヤ&セキュリティ社
プロダクト・マーケティング・マネージャピート・スタントン氏

「そのため、地域間で大きな差はないものの、国際的なホテルチェーンと小規模な単独経営のホテルを比べると、ホテルの格付けは、地域、地方を問わず格差がある」。

多くの場合、現地の規制措置は、ホテルが整備すべき映像監視の程度の大小について明確に概要を定めている。「メキシコ湾岸などの地域では、規制措置により、広い範囲を映像監視することが義務づけられている」とシュナイダ・エレクトリック社ホテル用ソリューション担当副社長フランシス・カール氏は語る。「一方、イタリアなどの国では、個人のプライバシー保護のため、公共空間でのカメラの使用を制限している」。

利用可能な技術とその価値についての知識に差があるため、セキュリティ機器、特にネットワーク映像を長期的なROI（投資利益）ではなく、原価要素ととらえている人が多いとジャスマニ氏と言う。「当社は、各種の技術を容易に受け入れ、理解できるようにすることに主眼を置いている」。

「接客業界ではビル所有者が経営者ではないケースが非常に多い。そのため、どのようなセキュリティシステムを整備するかという点で、関心は大きく異なる」とハートマン氏と言う。「ホテル経営者の一番の関心事は、ホテル事業を存続させるため、ホテルのブランドと評判を守り、ビルの潜在的な危険や損害を小さくすることにある。ビル所有者は、ビルを確実に現地の基準、規制措置に適合させることにだけ重点を置き、そこから先のことには意識を向けようとしない。その結果、心理や法規および基準などの要求条件の違いからではなく、ホテルのビルを所有するのが

ホテル経営者か、それとも第三者かによって大きな差が生じる」。

新興市場では政治情勢が不安定であることから、セキュリティにより重点を置く傾向にあるとハートマン氏は言う。「しかし、確立された市場でもセキュリティ意識の高まりが見られる。世界各地で新たなセキュリティ上の脅威が生じていることも原因だが、旅行者のタイプにもよる。例えば地域によっては、ビジネス旅行者の半分が女性の場合もある」。

プライバシー保護と安全確保

プライバシー保護と安全確保の完全なバランスをとることは、ホテル経営者にとり引き続き難題だ。セキュリティ機器を設置しすぎると、宿泊客が常に見られていると意識する可能性がある。一方、設置数が少なすぎると、セキュリティの抜け穴が生じ、宿泊客に安心感を与えることができない。

問題は2つあるとハートマン氏は説明している。「まず、最新のシステムで実現している宿泊客の身元確認、挙動や居場所などの透明性に関する問題である。この懸念にうまく対処できるかは、セキュリティ確保にはどのようなデータが必要かを認識することが重要で、これは、世界のどの地域でホテル業を営んでいるかに左右される」。例えば、こうした懸念は、人々が常に危険を意識している一部の新興市場よりも、欧州



階段や廊下の監視に横長形式を採用した場合、記録の大部分が余分なスペースとなり、帯域幅と記憶容量の無駄遣いになる。

で強くなっている。また、世代の違いという側面も考慮すべきである。「ソーシャル・メディアとの関わりに慣れていく若い世代の来客は、プライバシー保護への期待度が低く、他人が差し出がましいと感じるようなことにもオープンである可能性が高い」。

また、宿泊客に関するデータは増え続けるばかりだが、これらのデータを保護する必要があるとハートマン氏は言う。「世界規模で展開しているホテルチェーンのほとんどがプライバシー保護の方針を設ける傾向にあるが、接客業界が他のビジネス分野のデータ保護レベルに到達するには、まだ時間がかかる」。

映像監視に関して、宿泊客の大多数がホテルに必要なセキュリティ対策とそ



シーメンス・ビルディング・テクノロジー社
シーメンス・ワン・ホスピタリティ市場
開発委員会代表
マイケル・ハートマン氏



NXPセミコンダクタ社
識別システム営業担当副社長
スティーブン・オーウェン氏

の強化を理解し評価しているとリム氏は言う。「カメラがエレベータやロビー、廊下に適切に設置されている限り、宿泊客はより安全と感じ、カメラなしの安全でない状態を好むことはない。

「監視が厳しすぎるといった苦情が宿泊客から寄せられた記憶はない」と、ファンコート氏は言う。「宿泊客は、監視を自分達の最大の利益に繋がることとして理解している。ホテル内で宿泊客を不安にさせるような事件が起きれば、調査に使用できる情報は多ければ多いほど良く、事件の後遺症が残らない方が良い。より新しい技術が利用できる現在、犯罪科学に基づく証拠を集めるプロセスが速くなるのは当たり前のことだ」。

多くの中級そして高級ホテルでは内装設計に神経を使うことから、カメラの外観が調達過程で決定的な要因となっている。「欧州地域では、優雅な周囲に溶け込み、美的デザインを持ち、控え目だが信頼性の高い監視を実現するカメラが好まれる」とクウ氏は付け加える。

部屋の入退管理に関して、ほとんど

のホテルは、磁気カードや暗号化レベルの低いカードといった単純なカード方式から抜け出そうとしているとリム氏は言う。「ホテルの評判が高ければ高いほど、ルームカードがホテルの従業員や他の宿泊客によって容易に複製できるとしたら、宿泊客の信頼度は低くなる」。こうした懸念を解消するため、非接触カードや最

新のRFID技術の使用が増え、入退時のセキュリティやプライバシー保護が強化されつつある。部屋の入退に制限を設けることは、宿泊客のプライバシーとセキュリティの両方を維持し、ホテルの資産を保護する上で有益だ。

同様に、従業員の客室やその他の区域への入退制限と管理も焦点となりつ

つある。「入退カードの一部をマスターカードにして、これらのカードには追跡記録を残さないという方法も可能ではないか」とリム氏は言う。しかし、これが、セキュリティ違反やプライバシー違反につながる可能性があると考えられるホテルも増えている。「従業員用として個別に暗号化されたカードを作成しているホテルもあり、掃除係が特定の客室へ入室した日付と時刻の記録を公開することができる」。明確な記録があれば、ホテル経営者は、宿泊客のプライバシーを侵害することなく、日常業務を行うことができ、事件や矛盾が発生した場合にも適時に対応することができる。

本特集の後半では、ビルの自動化と省エネ原則に基づくホテル経営の増大を取り上げる。このようなホテル経営を補完するセキュリティ機能の導入は、経費節減を支援し、ブランドや企業の社会的責任のイメージアップにつながる。

AKS



映像監視のない客室の安全は、エレベータや廊下に設置されたカメラと、高度なドアロックシステムによって守られる。(画像提供: Geutebruck社)

secutech

THAILAND

セキュリティ/消防/安全管理の国際展示会

出展社募集中！ タイで最大級のセキュリティ/ 消防 / 安全管理の専門国際展示会

2012年6月28～30日
バンコク国際見本市センタ (BITEC)

www.secutechthailand.com

2011年の実績：

- 16ヶ国から116社。
- 3,929名の産業バイヤー
- 25のセミナーで736名聴衆

2012年の規模拡大

- タイのマーケット2億ドル超 30%の高成長率
- 140出展社（見込み）
- 5,500名来場者（見込み）
- 豊富なセミナーと新イベント同時開催

**2011年11月30日までに
ご予約いただくと、早期割引
の優待が受けられます！**

お問い合わせは下記までどうぞ

ASJ 社

Tel: 03-6206-0448

Fax: 03-6206-0452

komori@asj-corp.jp



messe frankfurt

ホテルのセキュリティとビル管理の統合化

セキュリティは、ホテル経営のパズルの一片に過ぎない。セキュリティ・システムをビルの自動化と結び付けることにより、管理の効率化と経費節減をよりうまく実現することができる。

a&s International

セキュリティは、ホテル経営および管理において1つの側面に過ぎないが、重要な位置を占めていることも確かだ。ホテル経営者は、ホテルの大型化や施設管理の複雑化に伴い、総所有コスト(TCO)を最小限に抑えるために融合を進め、より環境に配慮したソリューションに移行しようと苦心している。

「セキュリティ設備は、保護という総体の1つの側面に過ぎない。もう1つの重要な側面は、セキュリティをどのように管理するかだ」とシーメンス・ビルディング・テクノロジー社シーメンス・ワン・ホスピタリティ市場開発委員会代表マイケル・ハートマン氏は語る。「ホテルのセキュリティを実現するためのネットワークも技術も複雑化の一途をたどっているため、専門スタッフ全員を現場に配置することなど、もはや不可能になりつつある。また、技術の融合により、セキュリティ部門と情報技術(IT)部門を徐々に統合していく傾向にあるが、セキュリティ専門スタッフが必ずしもITの専門家だとは限らない。そのため、ホテル経営者にとっての大きな課題は、いかなる場合も専門的な教育を受けたスタッフだけにシステム管理を担当させることだ。この課題を解消するには、特定業務の外注化という方法が

考えられるが、実際、遠隔監視から警報管理に至るまで、セキュリティ担当部門と安全管理担当部門でこうした方法を取る傾向が増えている」。

「ホテル経営者は、統合ソリューションを採用することで、エネルギー効率の最大化と廃棄物の削減を可能にするために実行可能な情報を得て、環境問題に配慮することができる」とシュナイダ・エレクトリック社ホテル用ソリューション担当副社長フランシス・カール氏は語る。「この種の情報は、簡単にアクセスし、共有することができる。様々な利害関係者に規模の経済の可能性を伝え、廃棄物の発生原因になる問題を認識させることができるため、利害関係者は、しかるべく行動することができる。インターネット・プロトコル(IP)を利用することで、こうした統合化を容易に設計することができる」。

一元化か分散化か?

今日、かなり多くのホテルリゾートで見られる現実だが、システムと区域を個別に安全確保し管理する断片的な手法に、もはや生き残る道はない。「総合的なリゾートホテルや大型ホテルでは、一元化されたソリューション、分散化されたソリューションの両方が必要

だ」とアデムコ・ファーイースト社セールス&マーケティング担当取締役パトリック・リム氏は語る。「例えば、サブシステム、機器のすべてを一元的に監視し記録することができるソリューションが存在するが、これらのソリューションでは、区域ごとに小型の監視システムを設置することもできる。つまり、個々の現場のセキュリティ要員がより多くの情報を得て対応することができ、中央ではセキュリティ管理チームが情報を管理し、必要な場所を監視することができる」。

一元化と分散化のどちらの管理手法を選ぶかは、組織の運用要件により決まるとアクシスコミュニケーションズ社アジア地域担当マネージャのナフス・ジャスマニ氏は語る。「要素として挙げられるのは、利用可能な整備基盤、システムの拡張性、個々の要求条件である。一元化システムと分散化システムとではコスト構造が異なるので、必要不可欠な運用面で妥協することなく、特定の目的を十分に果たすシステム設計が必要であることを理解することも重要だ」。

環境への配慮

エネルギー制御や冷暖房空調設備

の制御とは異なり、ホテルのセキュリティは365日24時間の稼働が求められる。一時的に停電して実況監視を中断する、範囲ごとに停止時間を事前に設定するといった措置は、ホテルシステムでは許されない。一定の初期投資は必要だが、システムをうまく設計し動作させ、維持することで、長期的には元が取れ、かなりのエネルギー削減とコスト削減そして二酸化炭素排出量の削減が可能になる。

システムを自動化し、需要や予め設定した値に基づいてエネルギー消費を制限する方法があるとハートマン氏は言う。「会議室の空調管理の場合、タッチスクリーンを使用して、事前に設定済みの空調設定を会議室のユーザIDに割り当て、人数と会議時間やその他の要素に応じて、定義済みの空調パターンを始動するといった方法が採用され始めている。同様に、客室では、無線ICタグ(RFID)を利用したドアロックと客室内の動体センサを組み合わせ、中に人がいることを確認し、客室内の関連システムのスイッチをオン/オフする方式を採用する傾向が見られる。その際、需要に応じた室内自動化機能を使用して、客室内にいる人が誰かを識別し、宿泊客であればブラインドを開けて照明を最大にして冷暖房空調設備をオンにし、清掃係であれば照明を減光してブラインドを開けないといった対応が可能だ」。

ホテル向けの技術のもう1つの重要な傾向として、センサ類の開発、配備の速さを挙げることができる。「単一方向へのデータ送信機能を備えた受動センサは今でも多数使用されているが、宿泊客とシステムとの対話を可能にする能動センサは、機器間のデータ交換



シュナイダ・エレクトリック社
ホテル用ソリューション
担当副社長
フランシス・カール氏



アクシスコミュニケーションズ社
アジア地域担当マネージャ
ナフス・ジャスマニ氏



Vivotek社ブランド事業部門
取締役 ウィリアム・クウ氏

を可能とするもので、RFIDなどの技術に支えられ、用途も適用分野も拡大している」とハートマン氏は言う。

例えば、客室や会議センタの入退管理システムは、室内の照明や冷暖房空調設備のスイッチを自動でオン、オフすることができるため、空室時のエネルギーの浪費を防止することができる。駐車場管理をセキュリティ・システムと統合するケースは珍しくないが、この統合により、リアルタイムでの進入許可、映像録画、ナンバー・プレート自動認識(ALPR)が利用可能になるとハートマン氏は付け加える。「こうしたシステムは、駐車案内と組み合わせることにより、円滑な進入と駐車スペースを見つける時間の短縮を実現する。来客の利便性が高まり、燃料の消費と二酸化炭素の排出を減らすことができるので、ホテルの二酸化炭素排出量削減にプラスの効果を生み出すことができる。さらに、動体センサを使用すれば、必要に応じて照明をオンにすることができるし、一酸化炭素検知器を使用することで、臨界濃度に達したら駐車場の換気装置をオンにすることができる」。さらに、監視カメラのエネルギー消費量を最小限に抑えることもできる。「中央制御室に映像をストリーミングすると消費電力量が最大になってしまう。この消

費量を調節する1つの方法は、ストリーミングの時間を設定し、電力の常時使用を避けることだ」と、Vivotek社ブランド事業部門取締役ウィリアム・クウ氏は語る。「電力効率を高めるもう1つの方法は、個々のカメラのローカル・ストレージのフル活用だ。メモリ容量は限られており、過度に書き換えを行えばカメラの故障を早めることになるので、ほとんどのユーザはローカル・ストレージを予備記憶装置として利用している。将来、テラバイトクラスのメモリがカメラに搭載されるようになれば、ローカル・ストレージはユーザにとって、より望ましく、便利なものになるものと期待している」。

セキュリティをどのような形でホテルのビル管理システムに組み込むとしても、最終的な目標は、セキュリティ・システムにより、ホテルの日々の業務と要件に適合し、現実的で最大限の保護が実現されるようにすることだ。「当社の役割は、設備の規模、他のソリューション要素の構成、各構成要素の統合の方法、誰がどの情報を利用できるようにするかを考慮した現実的なソリューションを設計し、顧客を導くことだ。どのプロジェクトにおいても、ソリューションの最適化は必須だ」とカール氏は言う。



出展社募集集中

震災から1年を迎える来年3月、 社会とビジネスの「安全・安心」に向けて SECURITY SHOWと3つのEXPOを一挙開催!

NEW

防災・事業継続クラウドEXPO

災害対策や停電対策に関する製品やサービス、そして有事においてもビジネスを継続するためのクラウド技術を活用した各種のシステムやBCPソリューションをテーマに開催。

【出展分野】

- ◎クラウド基盤サービス ◎クラウド構築支援 ◎SaaSアプリケーション ◎データセンター
- ◎災害対策 ◎停電対策 ◎安否確認システム ◎非常用備蓄品 ◎非常用発電機



NEW

テレワーク・ビデオ会議ソリューションEXPO

新しいワークスタイルとして、事業継続や省エネの観点からも重要性が増しているテレワーク(在宅勤務)を支援するツールや、企業の拠点間など遠隔地を結ぶ会議システムをテーマに開催。

【出展分野】

- ◎グループウェア ◎シンクライアント ◎リモートデスクトップ ◎VPN ◎情報セキュリティ
- ◎ビデオ会議 ◎Web会議 ◎IPテレフォニー ◎ユニファイド・コミュニケーション



NEW

スマートファシリティEXPO

電力・エネルギーの効率的な利用や、高いセキュリティと利便性・快適性の両立など、次世代のオフィスや商業施設を実現するさまざまなファシリティやビル管理システムをテーマに開催。

【出展分野】

- ◎スマートビル ◎ビル管理システム ◎照明・空調制御 ◎BEMS ◎エネルギー可視化
- ◎ファシリティマネジメント ◎省エネオフィス機器 ◎オフィス家具



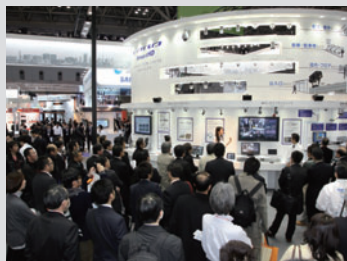
20TH ANNIVERSARY セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2012

街や社会の「安全・安心」を実現する製品を紹介する国内最大級の総合展示会
2012年3月6日(火)～9日(金) 東京ビッグサイト 東2・3ホール

主催: 日本経済新聞社

映像監視や入退管理から情報セキュリティまで、国内最大級のセキュリティ情報を発信する展示会「SECURITY SHOW」が、20周年を迎えて展示分野をさらに拡大。震災で明らかになったさまざまな課題に対処するための3つのEXPOを新しく同時開催します。震災から1年という、改めて社会やビジネスの「安全・安心」に注目が集まるタイミングで総合的な情報発信を行います。



募集要項

- ◆出展料金: 1小間367,500円 + 1社52,500円
- ◆出展申込締切: 2011年10月14日(金)
- ◆募集小間数: 200社、550小間(予定)
- ◆来場者数: 150,000人(見込み)

同時開催

第28回 流通情報システム総合展
リテールテック JAPAN 2012
NFC & Smart WORLD 2012 ほか

資料請求は

<http://www.securityshow.jp/> から

お問い合わせは

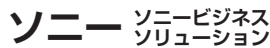
SECURITY SHOW 事務局
日本経済新聞社 イベント事業部 ☎03-6256-7355

セキュリティショー

検索

GDSF JAPAN 2011

世界デジタル監視フォーラムジャパン



GDSF JAPAN 2011は、2011年9月1日に東京秋葉原UDXギャラリー NEXTで開催された。当日は250名余の来場者がA・Bトラックの14のセミナーと16社の出展企業ブースに足を運んだ。

今回の基調講演は、「ONVIFその現状と未来」と題してジャバテル佐々木代表取締役が行った。講演は、1.カメラベンダーから見たONVIFの意義 2.VMS側から見たONVIFの存在意義や効能 3.VMS側から見たONVIF対応機種の特長 4.VMS側から見た今後の対応を望む点 5.VMS側から見たONVIFの進むべき方向性 6. ONVIFはVMSの淘汰を早めるかもしれないの、6部構成だった。佐々木氏は、講演の中でPCの発展とその影で淘汰されたワープロ専用機の例を挙げ、製品や技術が進歩することに意義があり、監視ソリューションにおいても当然の動きと語った。また、ONVIFの網羅しているプロトコルは大変広範囲であり、これら細部の互換性問題は当面は簡単に解決しないことも指摘した。そして、ONVIFにより標準化が進行しプラグアンドプレイが進化すると、ユーザの視点はカメラからVMS/NVRそのものに注目が移ること、また、カメラメーカーがVMS/NVRの選別意識を強化していくことも予測した。その結果、ユーザもまた必ずソフトウェア・ソリューションの優劣を気にすることになり、これによりVMSの淘汰が早まる可能性まで言及して、基調講演を締めくくった。

ネットワーク映像監視の最新ソリューション

デジタルハイビジョン世代に求められる映像監視

映像として、インターレース方式に比べプログレッシブ方式の方が高画質で、特にスロー画像に差が出る。また、ネットワークカメラでは720pや1080pといった高解像度の映像を録画することが可能で、システムの拡張性が高いことも特徴だ。しかも、ネットワークカメラではLANケーブルを利用することが基本で、増設の場合にもフロアごとのスイッチに繋げるだけの簡単さもメリットである。

新製品のAXIS M50シリーズPTZドームネットワークカメラは、直径13cmの筐体の特徴で、実際には直径5cm内に駆動するカメラが収まっている。さらに、カメラにインテリジェント機能を持たせ、指定した枠内で異常なアクションを感知

すると、自動的に通報する機能を装備している。しかも、モーション検知だけではなく、音声検知やいたずら検知も可能であることから、その活用範囲も広い。

監視カメラへのニーズとして、産業や職種に特化したインダストリーニーズとユーザーの利用用途によって発生するユーティリティニーズの2つがある。代表例としては、「交通・運輸」「小売」「製造」などがインダストリーニーズに分類され、「利用場面の拡大」「『見える』から『判別する』へ」「デイトナ≠白黒」というニーズの変化が出てきているのがユーティリティニーズといえる。これらの利用シーンでは、耐衝撃性や小型化のほかに、高倍率のズームや温度条件を満たす耐環境性能も重要になっている。



さらに、現在のアスペクト比率を応用して、9:16の画面で、縦長の映像を録画する例もあり、AXIS Corridor Formatでは特徴的な機能として提供している。

創業以来15年の間に、画質や解像度、拡張性など、すべての面でデジタルにシフトしている中で、用途に応じた多彩なラインアップが求められており、カメラ機能のカスタマイズやインテリジェンス化が重要と考え推進している。

アクシスコミュニケーションズ URL : <http://www.axiscom.co.jp/>

メガピクセルによってもっと安心な町を作る

HD監視の優位性を生かした理想的な監視システム

従来の映像システムは、CIFとD1の解像度が主流だったが、人の顔が判別できないという致命的な欠点があった。しかし、ユーザのニーズも高くなり、インターネットを経由して、大きな統合ネットワークを組み立て、管理者がPC上で複数箇所を同時に監視したいという要求がある。大規模システムの場合、コストを考える必要もあるが、高精細な画像で監視したいという要求に対しては、メガピクセルカメラが必要になる。

HD監視の利点としては、人の顔など細部を拡大して確認できることにある。画素数が多いため、ビデオ分析の精度が高くなり、複数の低解像度カメラの代わりに1つのHDカメラで同じ範囲をカバーできるのも利点だ。また、夜間

はLEDライトをつけることで、車両ナンバーを読み取ることも可能になっている。

HDカメラの課題としては、従来のアナログカメラに比べて高コストがある。また、プロトコルが異なるため、メーカーが異なると互換性が保てない。さらに、ストリームが大きいと、リアルタイムで映像を表示するには課題が残っている。しかも、設置のノウハウが不足しているため、管理やメンテナンスに費用がかかってしまうことも課題としてある。

大規模システムの場合には、他の設備との関係も重要なポイントである。

中国では、犯罪撲滅のため2004年から国全体で「平和都市プロジェクト」に取り組んでいるが、そのメインな部分が監視システムで、同社は中国の100



以上の都市で採用され、プロジェクトの主要なサプライヤーになっている。

プロジェクトはかなり膨大なシステムで、市内全体をデジタルカメラで監視するシステムと道路監視システムで構成されており、複数の大規模システムが関係している。特に道路監視はビデオ分析の応用のため、交差点ではメガピクセルのパン/チルトカメラが採用されている。

HIKVISION URL : <http://www.hikvision.com/en/>

富士電機が提供するグローバルブランド「PELCO」

Pelcoグリーンセキュリティソリューション

Pelcoは、世界130カ国に対して、100万台以上のカメラ納入実績がある。

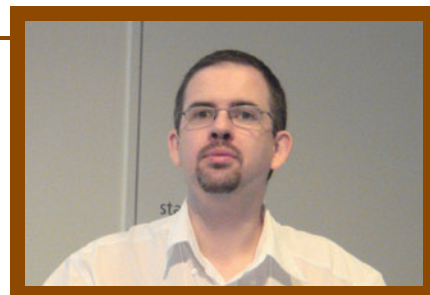
ビデオ管理システム「Endura」には、32～64台の中規模で利用される「EnduraXpress」と、2万台までの大規模に対応する「Endura」がある。

中規模用の「Endura」は、システムマネージャ、ワークステーション、記録装置の3つから構成されており、他

社のネットワークカメラと接続するオプションも用意されている。

大規模用の「EnduraXpress」は、記憶装置とシステムマネージャによって構成される。カメラ台数に合わせ、32台対応と64台対応の2タイプがあり、ストレージも3TB～24TBの記憶容量を持つ。

いずれも省エネ構造でグリーンソリューションを実現している。



富士電機機器制御

URL : <http://www.fujielectric.co.jp/fcs/>

GVD社HD-NVRのご紹介

GVD社の操作性に優れたHD-NVR

4～16台のカメラを利用したネットワークシステムを容易に構築できる。

独自開発したエンジン「TSE」を搭載しており、カメラを複数台接続してもフルフレームの録画を実現する。検索機能も充実しており、確認したい映像を同時再生で64chを瞬時に表示できる。

サブチャンネル機能、メガピクセルに照準を絞った製品、アラームポップ

アップ機能の簡単設定、メガピクセルカメラを有効利用できるROI&E-PTZ機能、トータルIP映像ソリューションがGVD社製品の5つの特長で、NVRやワークステーション、PCクライアントソフトが同一画面構成になっているため、統一されたGUIで使いやすい。しかも、映像だけではなく、音声のマルチ記録も可能で、iPhoneやiPadでも操作できる。



エスエスユニット

URL : <http://www.ss-unit.co.jp/>

フルHD監視システムの提案

SDIソリューションとIPソリューション

同社は2つのソリューションを提案している。アナログカメラを使う時、画角設定やケーブル切り替えを簡単にできるのが「SDIソリューション」で、ネットワークの知識がなくても、直感的に映像を記録できる。エンドユーザー向けに最適で、遅延やコマ落ちのない高解像度のライブ映像が受信できる。アナログと同じ同軸ケーブルを使用するため、従来システムを利用でき、コス

トの削減に繋がる。

また、「IPソリューション」は、1080Pでリアルタイム表示が可能で、PoEハブを内蔵しているため、イーサネットケーブルで、画像や電力を1ラインでやりとりすることができる。プラグ&プレイでユーザ名やIP、パスワード、PTZ設定を1台ずつする必要がなく、ケーブル接続するだけで設定が可能になる。



ダイナカラージャパン

URL : <http://www.dynacolor.co.jp/>

HD防犯ソリューションのご紹介

nevio HDシリーズ / HD CCTV

フルHD対応の製品がnevioHDシリーズで、圧縮方法はH.264かMJPEGを選択できる。ONVIFとPSIA規格に対応し、NVRとしてはソフトウェア・ベースとハードウェア・ベースを用意している。特にソフトウェア・ベースの「PowerFocus」は、最大64台までのカメラ接続ができ、Emapシステムにも対応している。また、ハードウェア・ベースではNAS型のMini2

があり、最大4台のカメラ接続に対応したミニシステムを構築できる。

HD CCTVは、HD映像信号を同軸ケーブルで伝送でき、非圧縮で遅延のない送信が可能になる。しかし、レコーダで圧縮されるため、再生時やコピー時に、多少の誤差が発生するので、既存のアナログカメラとHD CCTVカメラを混在できるハイブリッド型レコーダも提供している。



エヴァーフォーカスジャパン

URL : <http://www.everfocus.co.jp/>

ネットワーク映像監視の最新ソリューション

ストレージ・ビデオ監視の課題と解決法

現在ユーザーが求めているトレンドは、メガピクセルで、広範囲に画像が撮れることと画像の鮮明さが理由にある。

しかし、実際にメガピクセルカメラを使ってシステムを組むことになると、カメラ選択の問題に突き当たる。実際に、ソフトウェアをパソコンに入れて、メガピクセルを使った場合に、うまく画像が撮れるのか、またどのソフトウェアを使うのがよいのか。どうしてもメガピクセルになると数メガのデータを扱うので、ストレージの選定も問題になる。

当然、ハードディスクのI/Oには相当な負荷がかかってくるし、データ量が極めて大きいので、保存期間によっては膨大なストレージ容量が必要になる。

さらに、システム構築の実績が少ないなど、パソコンを利用した通常の方法では、高信頼性で効率的なメガピクセルビデオ監視システムは構築できない。

サーベオン・テクノロジーでは、小規模・中規模・大規模のシステム規模に応じて、セグメント別ソリューションを用意している。しかも、IPカメラからNVR、ストレージまで、すべて自社で開発・設計・製造し、すべて提供している。

マーケット規模に合わせた製品がそれぞれ揃っているだけでなく、すべてのソフトウェアが共通なため、小規模でも機能の豊富なエンタープライズレベルの管理ソフトウェアが使えることになる。

ビデオ管理ソフトウェアの特徴としては、メガピクセル録画に最適で、直感



的に操作できるリアルタイムインテリジェント検知機能が備わっている点がある。他社カメラもサポートしているので、カメラメーカーの制限はない。

同社が提唱するクラスター型ビデオストレージソリューションでは、NVR、VMS、ストレージを組み合わせた真のIPソリューションを実現でき、30%のコスト削減や設置空間、システム管理費用の20%削減を達成できるという。

SURVEON (テクノフォース) URL: <http://www.technoforce.jp/>

HD ネットワークカメラで広がる映像監視の世界

HD時代のネットワークカメラとレコーダの新製品

ネットワークカメラとして、高機能タイプ、エントリータイプ、コンパクトタイプがあり、それぞれフルHDとHDをラインアップしている。高機能タイプには、View-DRと呼ばれる逆光に強い機能が付いている。View-DRは、異なるシャッタースピードで録画した映像を4枚合成し、大幅な逆光補正をかけている。屋外用のモデルでは赤外線照射機能を持たせ、暗闇の中でも映像監視ができる。また、340度対応のHDネットワークカメラSNC-EPシリーズと、360度対応のHDネットワークカメラSNC-ERシリーズを新製品として発表するが、低価格だけではなく、他社にはない機能を揃えることで、新たなビジネスを創造している。

さらに、今後AT、AFの両方に対応し

たモデルが主流になっていくと考え、スマートフォンビューア機能を搭載した。

レコーダとしては、小型の8ch / 16chレコーダNSRシリーズがある。最大で12TBの記憶容量が可能で、メガピクセルの録画にも十分対応できる。また、上位機種のNSR-1000シリーズと共通の直感的なGUIを採用しており、統合管理も可能になる。

また、Sony Hybrid Camera Solutionとして、同軸ケーブル上にIP信号を流す技術であるIPoC (IP over Coax Technology) を提唱している。イーサネットと同軸ケーブルをIPoCアダプタで接続することが一般的だが、カメラにIPoCアダプタを内蔵しているため、直接同軸ケーブルをつなぐことが可能に



なる。さらに、4ch対応のレシーバを用意することで、複数台の映像を同時に受信できる。ハイブリッド機能も装備しており、アナログ映像のリアルタイム性とHD画像による高画質記録の両立が可能になる。既存の同軸ケーブルを利用できるため、工事費削減ができるだけでなく、イーサネットの距離制限を超えて、最大300m離れた地域へカメラを伸ばすことが可能になる。

ソニービジネスソリューション URL: <http://www.sony.jp/snc/>

Omnicast、SecurityCenterの国内導入事例

OmnicastおよびSecurityCenterによる新世代セキュリティ

GENETECは、1997年カナダのモントリオールで設立された。従業員は、ワールドワイドで320名。このうち70%は技術者が占め、Omnicastを始めとして、入退室管理システムSecurityCenter、車番読取システムAutoVuなどを開発している。

GENETECは、ONVIFのContributing Memberであり、北米をはじめ、中南米、インド、フランス、スペイン、UAEシンガポールなどに拠点をもち、日本では2002年より株式会社ジャバテルが代理店として製品の販売・サポートを行なっている。

Omnicastは、VMS市場の18.5%のシェアを占めており、全世界で60万台以上のカメラで利用されている。大規模事例では、1,000拠点で10万台以上に導入されたものもある。

ジャバテルが手がけた国内案件では、最大規模で1,000台のカメラを設置した事例がある。

そのほか、代表的な事例としては、電鉄会社23の無人の変電所に110台のカメラを設置した。7カ所の監視拠点からモニタリングを行い、使用帯域は12Mbpsまで、マルチキャスト不可、PTZの操作権限をカメラごとに設定するという要件をクリアした。

スーパーマーケットの代表的事例では、店内をVGA、屋外を1メガピクセルのカメラでモニタリング。3店舗、配送センター、商品検査センターに計164台のカメラを設置。店舗本部間は、インターネットVPNで接続し、本部から録画映像の検索を可能にした。



ポータルサイト運営企業のデータセンターでは、250台のアナログカメラ、20台のDVRを導入。5人3交代の警備員を2人3交代に削減し、運用コストを約40%に低減。パチンコ店事例では、IPへの移行を実施し、本部から5店舗のリアルタイム監視を実現。学校の案件では、SecurityCenterと監視カメラを統合、シームレスな視覚追跡システムを構築した。

ジャバテル URL : <http://www.javatel.co.jp/>

MOBOTIXの監視カメラシステム

360度全方位カメラ、T24 IP Door Station

MOBOTIXネットワークカメラには、4つの大きな特長がある。まず、ハウジング不要であり、駆動部分がないために壊れにくく、すべてのカメラがPoE給電であること。次に、カメラに装備された様々なアラーム機能、発報機能により、迅速な防犯対応が可能であること。

第3に、画像サイズの調整、イベント時のみの録画、低解像度から高解像度への調整機能などを利用して、メガピクセルの画像のネットワーク負荷と保存容量を低減することが可能であること。最後に、カメラ内部に録画管理ソフトウェアを内蔵し、NASやファイルサーバにそのまま録画ができることだ。

特に、全方位カメラQ24M-Sec-D11には大きなメリットがある。

Q24M-Sec-D11は、360度全方位を監視可能であり、駆動部分がなく故障が少ない。また、全方位をカバーするため、カメラ台数を減らすことができる。あるホテルの廊下の例では、従来16台のネットワークカメラでカバーしていた領域を、7台のQ24M-Sec-D11で置き換えることができた。

この他、新しい製品として注目されているのが、T24 Door IP Solutionだ。この製品は、ドアフォンと180度パノラマ画像のIPカメラを組み合わせたもの。ドア正面だけでなく、ドアの壁面付近、およびカメラの下の足元の画像までモニターすることが可能。さまざまなアラーム機能およびEメール、音声、ライトなどの発報機能も装備している。



T24 Door IP Solutionのアプリケーションとしては、オフィスの入退室管理、福祉施設の監視システム、緊急呼出システム、工場/倉庫などの出入口監視システムなどへの応用が考えられる。

T24 Door IP Solutionは、監視システムとコミュニケーションを一体化することにより、コストパフォーマンスの向上を実現した、ユニークな製品である。

MOBOTIX JAPAN URL : <http://www.mobotix-japan.net/>

Bosch HD トータルソリューション

豊富な製品ラインナップを提供

Bosch Security Systemsは、ワールドワイドに展開するBoschグループの自動車機器テクノロジー、産業機器テクノロジー、消費財・建築関連テクノロジーの3つのセクターのうち、消費財・建築関連テクノロジーに属している。ネットワークカメラをはじめとしたセキュリティ製品を、ホーチキ株式会社を総代理店として販売。ストレージ、NVR、モニタ、エンコーダ、赤外線照明器など、豊富な製品ラインナップを提供している。

Boschネットワークカメラは、6機種のHDネットワークカメラを含めて、20機種を提供。特にワイドダイナミックレンジを強化したデイ/ナイトカメラは、低照度に強く、夜間や照明の少ない場所の監視を容易にする。

BoschのDLA1200/1400、DSA (iSCSI ディスクアレイ) は、VRM (Boschビデオレコーディングマネージャー) というソフトウェアにより、サーバレスの録画を可能にする。また、ビデオ管理ソフトウェアは、16ライセンスまで無償提供のBosch Video Clientと、大規模システム向けのBosch Video Management Systemの2種を提供している。

Boschセキュリティ製品の大きな特長は、独自のIVA (インテリジェントビデオ解析機能) を搭載可能であることだ。IVA対応のネットワークカメラは、画像データと同時にビデオ解析済みのメタデータを配信する。IVAでは、不審者検知、エリア侵入検知、ライン横断検知など、10種類以上のトリガーを設定可能。



リアルタイムの監視システムでは、例えば不審者を検知した場合、監視室のアラームを鳴らす、光アラームを点灯させる、といったことが可能になる。さらに、Forensic Search機能により、録画データに対して、高速の事後検索をかけることも可能。録画データから、昨日、特定のエリアに不審者が存在したか否かを即座にチェックするといったこともできる。

Bosch Security Systems URL : http://www.boschsecurity.jp/content/language1/html/55_JPN_XHTML.asp/

ArobaViewと導入事例の紹介

ArobaView 導入実績からみるネットワークカメラ市場の未来

トリワークスは、1995年設立、デジタル・イメージ・コミュニケーションをテーマに、画像とネットに特化したビジネスを展開。ネットワークカメラ管理/録画ソフトウェア“ArobaView for Windows”は、同社が100%自社開発・販売を行っている。

ArobaViewは、ライブモニタリング、録画・再生、カメラ操作、設定・管理などの機能を持ち、メジャーなカメラメーカー10社、231機種のネットワークカメラに対応している。

ArobaViewは、1サーバあたり、カメラ台数4~64台までに対応。さらに録画用サーバ3台、5台、10台を統合管理する“ArobaView for Windows Enterprise Server”を提供し、最大640台までのカメラを一元的に管理することが可能だ。

テクノシステムリサーチ社によると、ArobaViewはビューア/録画ソフト部門で4年連続国内トップシェアを保持している。

ArobaViewを選択する決め手になっているのは、操作性が容易であること、導入後の年間サポートサービス、フレキシブルにカスタマイズ可能であることの3点が挙げられる。

操作の容易性の点では、マウスによる操作がほとんどで、操作はほぼ直感的に行うことができる。また、イベントが発生した際、ライブビューの画面から、イベントが発生したカメラの画面に自動的に切り替わる。年間サポートサービスでは、技術的な質問への対応、障害対応のほかに、最新バージョンの



無償提供を行っている。

ArobaViewは、100%自社開発のメリットを活かし、機能拡張、外部システムとの連繋、特殊カメラとの連繋、GUIの変更などのカスタマイズが可能。

ArobaViewの導入実績から、今後のネットワークカメラ管理システムには、本来のセキュリティ用途に加えて、業務効率アップ、業務改善などの付加価値が不可欠であるといえる。

トリワークス (現ルクレ) URL : <http://lecre.jp/>

監視・録画ソフトウェア KxViewPro

監視・録画ソフトウェア KxViewPro、中継ソフトウェア NetCamGATE

ネットカムシステムズは、ネットワークカメラに特化し、ソフトウェア開発・販売を行なっている企業。主力製品は、ネットワークカメラ専用高機能録画プログラム KxViewPro だ。KxViewPro は、現在 14 社 240 機種以上のネットワークカメラに対応している。

KxViewPro は、最大 64 台のネットワークカメラの同時録画が可能。録画サイズは、QVGA (320×240ピクセル) から、2,288×1,712 (4:3) 4メガピクセル、1,920×1,080 (16:9) フルHDまで設定することができる。

KxViewPro では、誤ったボタン操作を防ぐために、管理者モードでパスワードを設定することが可能。これにより、誤った操作や設定変更を防ぐことができる。

KxViewProには、このほか、スケジューリング機能、モーション検知録画機能、マルチ画面、デュアルモニター対応、オートスイッチャー機能(カメラの分割表示を自動的に切り替え可能)、PTZ ウィンドウ、マスキング機能、マップ機能、デジタルズーム機能などが装備されている。

再生画面では、通常のDVDプレイヤーなどと同様の再生・早送り・巻戻しなどが可能。デュアルモニターにより、ライブ画面と再生画面をいっしょにチェックすることもできる。モーション解析により、動きのあった部分のみを再生したり、または、日時を指定して再生したりすることが可能。さらに、システム(カメラ・ディスク・サーバー)が不調な際の警告、



予備ドライブの登録機能も装備している。

KxViewProは、2010年時点で1,000本以上が稼働し、カスタマイズにも対応できるため、幅広く利用されている。同社は、このほか、ネットワークカメラのセッションを中継する NetcamGate や、クラウド型ASP“さば録”、顔認証システム“顔みわけ〜”、車両ナンバー認識システムなどのサービス、アプリケーションを提供している。

ネットカムシステムズ URL : <http://www.ncam.net/>

VioStorによるリスクマネジメントの実現

映像セキュリティにおける負荷の分散とリスクの低減

テクノシステムリサーチによれば、ネットワークカメラは、2010年に約16万台が導入され、2013年の導入台数は約26万台になると予測される。特にメガピクセルカメラや、フルHDのネットワークカメラが、市場を牽引するものと期待されている。

NVRは、2010年に国内で約4,950台が導入され、そのうち1,300台がR.O.Dの製品である。NVR市場は、2013年には約8,000台以上に伸長するものと予測されている。

R.O.Dは、2004年からNVRを開発し、2010年にVioStor-Proシリーズを発売開始。現在までに、累計7,000台を販売してきた。VioStor-Proシリーズは、ダイレクト・モニタリングに対応し、PC

がなくてもモニタリングが可能だ。

VioStorは、2～8ベイ、チャンネル数は4～40まで、ディスク容量500GB～7TBまでの幅広いラインナップを提供している。また、2011年11月には、HDMI出力対応、H.264、フルHD対応、ディスク容量最大24TBの新製品を発表する予定だ。VioStorは、40社以上のカメラメーカーの1,000機種以上のネットワークカメラに対応している。

VioStorの導入事例として、まず、ホテル・施設のセキュリティを紹介する。従来は、PCベースのセキュリティシステムを導入していたが、録画サーバのメンテナンス中はすべてのカメラの録画が中断されるというデメリットがあった。VioStorの導入により、NASベース、フロアごと



の録画・メンテナンスを可能にした。

このほか、マンションの事例では、棟ごとに分散録画し、警備室では全カメラの監視を可能にした。また、多店舗を展開しているチェーン店では、ダイレクトモニタリングによりライブ映像は各店店舗に流しつつ、モニタリングと録画・再生は、本部で一括して行う、という要望に応えた。VioStorによる分散録画によりセキュリティシステムのリスク回避が可能になる。

R.O.D URL : <http://www.rodweb.co.jp/>

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル 代表取締役 CEO 佐々木宏至

帯域変動リスクの回避

今回はネットワークカメラシステムの帯域変動リスクの回避に関して解説したい。ネットワークカメラの帯域が変動する主な要因としては、下記を挙げることができる。

1) 被写体や撮影状況による要因

MPEG4/H.264では撮影される対象の動体率の影響が極めて大である。また、PTZカメラ、人の出入りの激しい場所の撮影でも変動する。そして夜間撮影の場合の変動も大きい。

2) 物理的な要因

接続されるクライアント数による変動を見過ごすことができない。

MPEG4/H.264では、同一設置環境でも条件により帯域は最小から最大まで100倍にまで広がることは珍しくない。HDTV 1920×1080をサポートしたネットワークカメラにおいて15fps(1秒間に15コマ)で設定したとする。晴天の日中でほとんど動きのない状態では128Kbps程度まで帯域は低下する。しかし、PTZ操作をすると瞬時に帯域は8Mbpsまで上昇する。

また、夜間で照度が不足してくる場合は平均値としても帯域は10倍程度まで上昇する。これだけ帯域がダイナミックに変動するとネットワークの設計は大変難しいものになる。前回でも説明したが、ネットワークカメラではトレードオフの考え方が大変重要である。最も過酷な条件で全ての要件を満たすことは

大変難しい。

帯域変動の回避方法

そこで、カメラに対する設定により問題の低減を試みる。

●回避方法(1)

VBR/GBR 可変ビットレート/ 固定ビットレートの設定

VBR 可変ビットレートの場合、そのカメラのエンコード能力により拡大する。そのため、PTZコントロールや夜間はビットレートの増大がネットワークの許容値をオーバーしてしまう。そこで、GBR固定ビットレートに設定することで上限帯域は設定値を大きく超えないようにエンコーダを帯域制御する。よく誤解されることだが、固定ビットレートは下限に関しては固定していない。

固定ビットレートの欠点は、上限に達した時にフレームレートを優先するか画質を優先するかのいずれかの選択、または両方が犠牲になることである。

●回避方法(2)

運用面からの考察

PTZを操作している場合の画面はダイナミックに変化しており、人間の目が完全に追従できる範囲ではそれほど大きな帯域増加にはならないが、プリセットなどで素早く動作すると帯域は大きく上昇する。このような高速動作では画像の確認はほとんどできないので固定ビットレートでフレームレート優先が良いだろう。それ以外の人の往来が激しい箇所ではフレームレートと画質のバランスを考える。一般的には画質優先が

好ましい。

夜間の低照度に関しては、前号で説明したようにカメラ選定に特に留意することだ。設定は日の出日の入り管理があれば望ましいが、ない場合は時間帯により設定をダイナミックに変える。例えば、夏場は午前7時から午後6時まではGBR フレームレートを優先し、午後6時から翌朝午前7時までは日中より設定帯域を下げ品質を優先する。

このようにカメラの設定条件を変えることで、帯域は妥協できる範囲で抑えることが可能だ。また、MPEG4/H.264では可変GOPに対応しているVMS(ビデオ管理ソフトウェア)の選定が重要となる。弊社の実験では同一条件の画質で最大3倍まで、平均して2倍以上もの帯域が節約されることが判明している。これは運用面もさることながら、熾烈な受注競争に勝ち抜く場合の大きな武器となる。可変GOP対応では必要ストレージが10TB、固定GOP(1秒)では30TBとなった場合にその差は歴然となる。

伝送プロトコルへの注意

次に伝送プロトコルにも注意点がある。16カメラ以下の小規模システムでは気にならないかもしれないが、中規模から大規模システムでは100% TCPプロトコルはNGとなる。

TCPプロトコルではリアルタイム(実時間)が想定されていない。さらに、スイッチングハブやサーバへの負荷も増大する。実時間で設計されていないプ

ロトコルで負荷が増大すると看過できないほど遅延が発生してしまう。電話では特に遅延が大きいと会話すら困難になることがある。

数秒の遅延はごく普通に発生している。しかし、映像において遅延が大きいと致命的な問題となる場合がある。映像伝送ではRTP伝送が基本中の基

本である。RTPはUDPを基本としているので、データ保障はない。しかし、LAN環境でパケットロスを出していること自体が問題である。きちんと設計、施工されていれば、パケットロスは別システムの負荷増大要因を除いて発生しない。

最後に大規模システムではマルチ

キャストが本命となってきていることを付け加える。そして、今回はこのマルチキャストに関して説明する。

追記：弊社はテロ対策特殊装備展（SEECAT）に出展し、想定以上にエンドユーザーからの引き合いを受けた。しかし業者間引き合いは余りにも寂しい状況だったことを報告したい。 **AKS**



See it all.
All the time.



統合セキュリティプラットフォーム

複数システムをシームレスに管理する、先進的セキュリティプラットフォームで効果的なセキュリティ対策を。

現在、世界中で数千社のユーザー様がこの統合セキュリティプラットフォームによって素晴らしい成果を上げています。

See what you need at genetec.com

ビデオ監視システム | 入退室管理システム | ナンバープレート認識

革新的ソリューション

Genetec

上記製品のご用命は下記代理店にお問い合わせください。



CBC 株式会社

I&IT Div. Sales & Marketing Group

東京本社

〒104-0052 東京都中央区月島 2-15-13

TEL : 03-3536-4599 FAX : 03-3536-4771

大阪

〒541-0041 大阪市中央区北浜 1-8-16 大阪証券取引所ビル

TEL : 06-6206-5044 FAX : 06-6222-0606

URL : <http://www.ganz.jp>

URL : <http://www.cbc.co.jp>



加賀ソルネット株式会社

加賀ソルネット株式会社

本社

〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-12-8

住友不動産秋葉原ビル 10F

TEL : 03-4455-3135 FAX : 03-3254-7182

関西営業所

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場 2-2-6 加賀ビル 10F

TEL : 06-6105-0432 FAX : 06-6271-8224

E-mail : info_support@solnet.ne.jp

URL : <http://www.solnet.ne.jp/>



プリンストンテクノロジー株式会社

本社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-9-5 K.A.I. ビル 3F

TEL : 03-3863-7370 FAX : 03-3863-7451

大阪支店

〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中 2-10-70

パークスタワー 12F

TEL : 06-6648-7111 FAX : 06-6648-7113

E-mail : dcs-info@princeton.co.jp

URL : <http://www.princeton.co.jp/>

静的署名照合システム 〈応用例〉

ウィッツェル株式会社 茶位 利昭

1.はじめに

前号までに静的署名照合システムの概要と照合方法を説明した。今回はその応用例を記す。今回紹介する応用例は次の2つである。

1-1.契約書署名確認システム

既存の契約書の署名と、新たなアクション(契約書の住所変更など)に対する署名を比較し、元契約をした本人が、新たなアクションを起こしているのかを、契約書の署名で確認するソリューションである。

1-2.動的署名照合システムとの連携による精度向上

動的署名照合システムは、筆記リズムをも比較・照合している。この筆記リズムが不安定なために照合されない場合に静的署名照合も行い、動的署名照合の照合結果と、静的署名照合の照合結果の両方を利用し、本人認証率を向上させる利用方法である。

2.契約書署名確認システム

文字通り紙(契約書)に書かれた署名イメージを照合する利用例である。例えば、WW生命保険会社では、保険契約に変更があった場合(例えば住所変更や結婚による名字の変更等)、変更届に内容を明記し、契約者本人が署名して、

変更申請を行うことになっている。申請された変更届は、元の契約書の署名と目視で比較し、大きな違いがない場合には変更申請を受け付けている。しかし、大量の契約書の中から元の契約書を探し出し、署名を比較するのは、かなりの手間と時間を要する作業である。このような場合に有効で署名を比較する手間を軽減することができる静的署名照合システムの利用法を紹介する。

2-1.システムの流れ

元契約の署名と、変更届の署名を照

合するための方法を説明する。図1を参照していただきたい。

- ①大量の元契約書をスキャンし、署名データベースを作成する。
- ②変更届に必要事項を記入し、申込者が署名を行う。
- ③変更届の署名と署名データベースの署名を照合して、本人度を確認する。
- ④本人度を指標に、適切な処理を行う。

このような流れになる。①は事前の準備作業、②～④が実際の変更届受理時の処理になる。

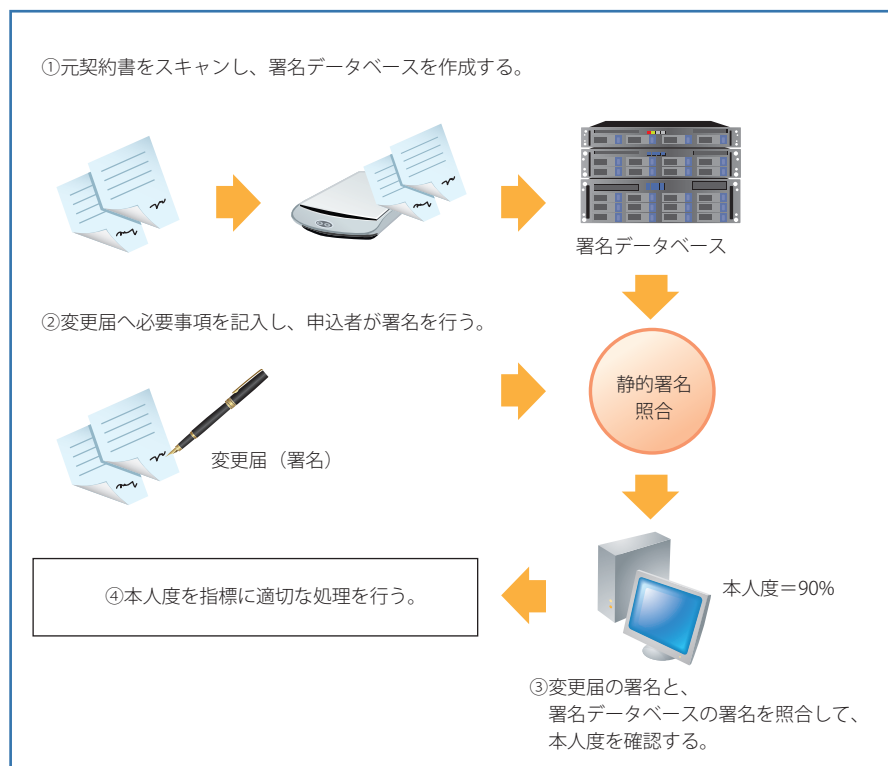


図1. 契約書署名確認システム

このように、動的署名照合システムとは異なり、静的署名照合システムは過去に筆記された署名に対しても照合の対象とする事ができるのである。また、②の変更届への署名を、電子タブレット上で行うことにより、変更届への筆記と同時に署名イメージを取得することができるので、紙に筆記した署名をわざわざスキャナー等で取り込む手間も不要となる。

3.動的署名照合システムとの連携

次に、静的署名照合システムのもう一つの利用方法である、動的署名照合システムとの連携について説明する。これは、動的署名照合システムの照合精度を高めるための利用である。

図2に示すように、「署名A」と「署名B」の照合を考える時、以下の手順で照合を行う。

①署名Aと署名Bを動的署名照合システムにて照合を行う。

この結果、照合OKの場合と照合NGの場合は問題ないのだが、動的署名照合システムで結論が出なかった場合（動的署名照合システムでの照合結果が閾値に近く、照合結果をグレーと判断し、OKともNGとも判断できないという結果を返した場合）には、次のステップに進む。

②署名Aと署名Bを静的署名照合システムで照合を行う。

前項にも記したが、動的署名データは、それをイメージ化する事により、静的署名データとして取り扱う事ができる。これを利用して、署名A、署名Bを静的署名データとして取り扱え

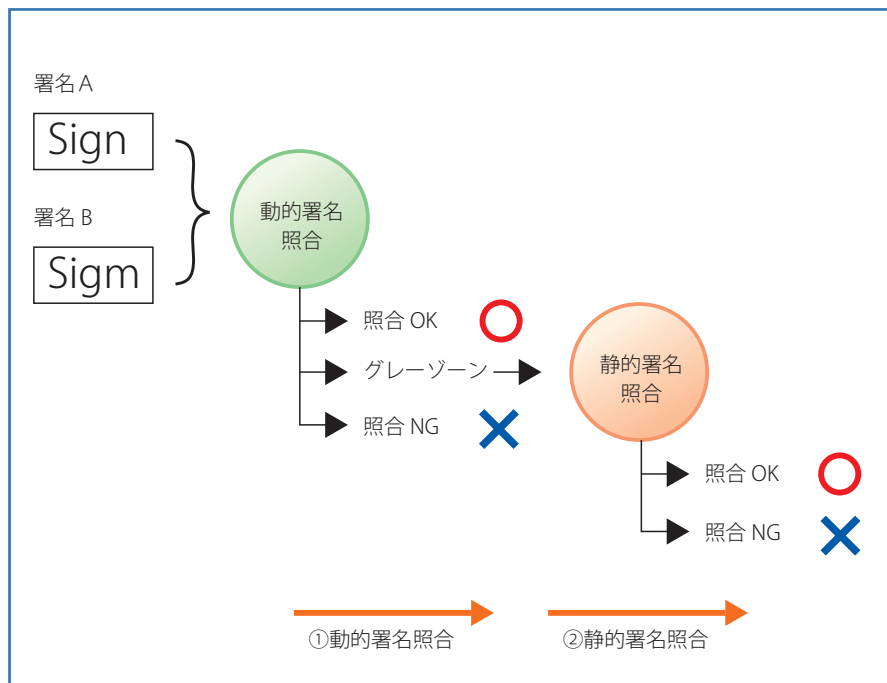


図2. 動的署名認証と静的署名認証の組み合わせ

るように変換してから静的署名照合を行うのである。

以上のようなステップで署名照合を行うことで、本人ではあるが筆記リズムが不安定であるがために、FRR (False Rejection Rate : 本人拒否率) が大きい人を救済できることが弊社の実験で確認されている。ちなみにこの順番での照合の場合は、FAR (False Acceptance Rate : 他人誤認率) の増加はなかった。

4.おわりに

どちらの利用例も、動的署名データをイメージ化して、静的署名データとして取り扱うことで利便性の向上や、精度の向上が実現している。高精度だが、認証が必要な時に筆記者が筆記出来る状態である事が必須だった動的署名照合システムと、過去に筆記した署名や、筆記装置を選ばない静的署

名照合システムが連携する事で、従来よりも応用範囲が拡大し、様々な場面で利用出来ると考えられる。

静的署名照合システムの利用法のひとつに、印鑑の置き換え需要があると考えている。ペーパーレス、印鑑レスへの進化である。電子タブレット上で署名を行えば署名データは全て電子的に処理する事が可能であるし、従来の紙に署名していた契約書もスキャンする事によって電子データ化され、署名照合を行う事が出来る。これで、過去の紙データからの移行もスムーズに行える。

以上3回に渡り、概要、照合方法、応用例と記してきたが、ペンや指で操作するスマートフォン、タブレット端末、スレートPCなどが爆発的に増えると予測される現在、手書き署名技術（署名の取得から動的・静的照合まで）は、無くてはならない技術となるであろう。



指静脈認証システム導入事例(3)

危険物・薬品用保管庫の管理

【厳しい管理条件】

危険物や薬品の管理は、消防法第3章および危険物の規制に関する政令により厳しい管理が義務づけられている。そのため、仮に一般的な鍵を幾重にしようともそれらによる施錠だけで保管庫を管理する方法での対応は、法令の趣旨を遵守しているとは言えない。上記の法令が制定されたのは1959年であり、当時は鍵による管理しかない時代であった。そして、その管理方法は当時から50年以上を経た現代でも、一部の企業や研究所、病院や工場などでそのまま採用しているのも事実である。そのため、劇薬や危険物が盗難にあったというニュースで不安にかられることも決して稀ではない。つまり、あらゆる危険物や薬品が極めて頑強な保管庫に厳重に施錠しているだけでは決して安心とは言えないのが実情である。

【問題点】

保管庫の鍵を、誰がいつどの鍵を持ち出し、いつ返却されたかを正確に管

理をする必要があるにもかかわらず、鍵の使用日時、使用者の履歴を記入する記録簿への記帳は厳格に守られているとは言い難く、管理は大変煩雑である。さらに、管理者が安全対策にばかり目を向けると利用は不便となり、機能重視では事故の起きる可能性が増大する。したがって、管理者は常に安全と機能の両面に配慮が必要である。管理方法として、保管している危険物や薬品により甚大な被害が発生することを考慮すれば、一般的な施錠だけでは極めて脆弱な管理と言えるであろう。なぜならば、鍵は物理的な複製が簡単にでき、しかも複製した痕跡すら残らないことが多い。そのため、一般的な施錠による管理方法だけでは厳重な管理条件を満たしているとは言えない。その点、生体認証を取り入れた鍵管理方式は管理方法の精度を大きく高めることができる。

【厳格な手順】


指静脈認証鍵管理ボックスは①使用者の静脈を登録する。次に②どの

鍵を使用できるようにするか、権限を設定する。つまり、使用者ごとに使用できる鍵とできない鍵を細かく設定できる。さらに、③鍵を取り出せる日にち、時間帯を設定できる。設定されていない日時(休日、深夜等)には鍵を取り出すことができない。設定できるスケジュールは2千種ある。そして、④誰がどの鍵を使用し、いつ返却をしたか、日時の履歴がPCでリアルタイムに検索・閲覧管理できる。⑤返却されていない鍵の番号が一覧で検索できると共に、鍵ボックス本体にも、未返却の鍵はどれか、赤ランプで表示される。⑥履歴の保存は2年間、5万件が保存できる。

【導入効果】

上記のように、危険物・薬品保管庫の施錠管理として指静脈認証鍵管理ボックスを導入することにより、煩雑な管理事務から開放され、効率化が図れると共に、精度の高い管理方式を実現することができる。

AKS



指静脈認証鍵管理ボックス FDV-KLシリーズ

入退室管理システムとも簡単に連動できます



安 価

高 速 認 証

すぐれた環境特性

- ・ 鍵の貸出／返却を指静脈認証で確実に行うことができます
- ・ 鍵に付いているキーホルダー(RFタグ)をリーダーで読ませると返却場所がLEDで簡単に分かります

株式会社 フィットデザインシステム Tel.04(2951)5166 <http://www.fit-design.com>



Bosch Security Systems、 パートナー・カンファレンスを初開催

Bosch Security Systemsは、2011年10月28日に第1回BSCPパートナー・カンファレンスを開催した。欧州大手セキュリティ企業の場合、直接販売でなく、パートナー企業を経由する間接販売方式が主流であり、同社は販売チャネル構築のため周回の準備を整えて、この日の開催となった。



BSCPとはBosch Security Certified Partner：ボッシュセキュリティ製品認定販売パートナーの略称で、Bosch Security Systemsが全世界に展開している標準的な販売およびサービスを提供するためのプログラムである。本プログラムは、Boschセキュリティ製品と製品に付随する各種サービスの顧客や見込客への紹介を担当する販売会社および設備サービス企業を対象としている。登録料や年会費などBSCP参加に伴う費用負担は一切発生しない。

本プログラムのメンバーシップには、クラシック、ゴールド、プレステージ、ファシリティサービスプロバイダーの4つの種別がある。

●**クラシック**：Boschセキュリティ製品に関する一定の知識と理解を持ち、エンドユーザに対して製品に関する一般的な説明と提案ができるパートナーである。

●**ゴールド**：Boschセキュリティ製品に関する一定の知識と理解を持ち、エンドユーザに対して製品やシステムの設置から導入までのトータルな提案ができるパートナーである。

●**プレステージ**：Boschセキュリティ製品およびソリューション全般に関する一定の知識と理解を持ち、製品やシステムの設置から導入までのトータルな提案、そしてエンドユーザからの技術的な問い合わせにも対応可能なパートナーである。

●**ファシリティサービスプロバイダー**：Boschセキュリティ製品およびソリューション全般に関する一定の知識と理解を持ち、製品やシステムの導入および設置に至るまでの一貫した設置サービスを提供できるパートナーである。そしてエンドユーザからの技術的な問い合わせにも対応可能なパートナーである。

BSCPは上記のメンバーに対して、販

売サポートおよびマーケティングサポート、テクニカルサポートおよびトレーニングなどを用意して支援体制を整えている。

販売サポートには、Bosch認定販売パートナー登録、提案書や導入事例などの営業支援ツール、評価機貸出制度、評価機特別価格購入制度、ニューズレ

ターおよびポータルサイト、専任営業責任者による支援がある。

マーケティングサポートには、最新の製品や技術情報の提供、Bosch主催イベントなどへの招待、ロゴやマーケティング資料の提供、共同プロモーションの実施がある。

テクニカルサポートには、検証用機器貸出制度、検証用機器特別価格購入制度、技術的サポートの提供がある。

トレーニングには、無償の営業および技術トレーニング、ネット上で行われるWebセミナーであるWebinarがある。

既にBosch Security Systemsは、第1回BSCPパートナー・カンファレンス開催直後に複数企業からBSCPプログラム参加申込を受けている。さらに同社では、強力な連携関係を樹立したパートナー企業を全国主要拠点に確保して、日本市場での積極的な事業展開体制を確立する考えだ。

Bosch Security Systems社に 日本市場戦略を聞く

世界最大の自動車部品メーカーであるボッシュ社は今年、創業者であるロバート・ボッシュ生誕150年、ボッシュ社創業125年、そして日本進出100年を迎えた。同社の一員であるBosch Security Systemsは、ボッシュ社の売上の30%を占める消費財建築関連部門の映像分野で監視ソリューション、入退管理、侵入検知などを担当する企業である。

いくつかの記念すべき年である2011年、Bosch Security Systemsは日本市場での事業展開をこれまでになく積極的に推進している。そこで、今回日本初となるBSCP(Bosch Security Certified Partner:ボッシュセキュリティ製品認定販売パートナー)プログラムの発表会に合わせて来日した同社映像システム部門副社長ウルリヒ・マンゴールド氏に、同社のセキュリティ世界市場での事業状況と日本における今後の活動について聞いた。

編集部

問 貴社の世界市場およびアジアでの事業成長は？

答：世界市場でみると、当社のアナログ製品は新価格体系の導入による優れた経済性があり、安定した実績を残している。また当社のIP製品は約40%の成長を遂げている。現在のセキュリティ世界市場ではアジアと中南米が成長している地域となっている。

一方、アジア市場では、全体で20%以上の成長を続けているが、その内容は国により差がある。特に中国とインドでの成長が著しい。日本市場については、アナログシステムが優位な市場が長く続いてきたため、IPやトータルソリューションの本格的な普及がこれからということで、優秀なパートナー企業と連携して市場開拓していく考えだ。

問 貴社の製品ラインナップに対する考えは？

答：世界の主要メーカーを大別すると、製品ラインナップを豊富に取りそろえているグループと、特定技術や製品に特化して事業を繰り広げているグループがある。当社の場合、前者に該当することになるが、具体的には高い技術による裏付けのある製品を幅広く提供することで、競合他社との差別化を図っている。

さらに、今後は様々な製品やソリューションそしてソフトウェアなどをさらに強化する方針だ。そのため、ネットワークカメラにおいてもフルHDからVGAまで様々な画素数の製品を既に提供している。ただし、当社が他社と大きく異なる点は、当社がカメラだけでなくモニターやソフトウェアなどを含めた完結したソリューションを提供することができること

だ。今回積極的な事業展開を進めている日本市場でも、当社製品を日本向けにローカライズして、日本の顧客ユーザから高い評価を得られるよう、完結したソリューションの提供を考えている。

問 まだカメラの主流は1.3Mピクセルだが最近主要企業が2Mピクセル以上の製品を続々と発表しているが、この動きに対する貴社の考えは？

答：市場でも当社でも数量的にはHD仕様となる1.3Mピクセルが主流であるが、フルHD仕様となる2Mピクセル、またそれ以上の高い画素数の高解像度カメラを提供していくことも重要と考えている。その場合、大きな違いを發揮し成功の鍵を握るのはソフトウェア

と見ている。そこで、IP技術を拡大するためにも不可欠となるソフトウェアソリューションの提供に積極的に取り組んでいく。

問 貴社が有している低照度での優秀な映像技術を、今後どのように展開していくのか？

答：低照度映像技術はこれまでに高い評価を得ているアナログ製品にとどまらず、IP製品そしてHD製品でも導入しており、その強みを既に活用している。さらに微調整することで画質を高めていく。そして、他社が並ぶことのできない低照度映像技術水準の実現を目指して、今なお研究開発を継続している。

問 貴社の謳っているIMAGEOLOGY(監視科学)に基づいた自社開発VMSとオープンプラットフォームであるサードパーティ製VMSとの住み分けは？

答：当社の自社開発VMSには、カメラ台数最大3000台対応の大規模向けのBVMSと最大64台まで対応のBVCがあり、様々なソリューションを提供している。

その一方で、世界市場で提供されている主要VMSとの関係については、当社ハードウェアとの統合を進めることを重視している。自社開発VMSについては、顧客ニーズに応えることができるソフトウェアと位置づけて開発に取り組んでいる。このような動きとは別に、日本市場ではどのVMSと統合するのか、またどこで統合するのが意味を持つのか

などについて個別に調査している。

問 貴社技術のIVA(インテリジェント映像解析)を将来単独で販売する考えはあるのか？

答：IVAは当社製品に搭載している戦略的なソフトウェア製品である。IVA導入時には顧客と保守契約を締結し、インテリジェント機能などのアップグレードをサポートしている。しかし、IVAを有償で外販することで色々な相乗効果が生まれるならば、将来的に販売する可能性もあるかもしれない。

問 ONVIF規格に対する取り組みはどのような内容か？

答：コンプライアンスに基づいて、カメラだけでなくIP製品は全てONVIF対応としている。これは、ONVIFによる標準化が進むほどユーザメリットを拡大することができるという考えに基づいている。また、ONVIFがこれからの大規模システム間通信のカギを握っていると理解している。そのため、今後もこれまで通りの主導的な立場を維持し、規格を厳格に遵守するという当社の姿勢に変化はない。

問 熾烈な日本市場競争への対策はどのようなものか？

答：第一に重要な要素の一つである価格設定については、競争力を維持するために常に価格コストを抑える生産体制を強化している。次に、様々な顧客ニーズに応えることのできるソリューションの提供にも注力している。そして、当社製品の品質と革新性で、これに



Bosch Security Systems 社
映像システム部門副社長
ウルリヒ・マンゴールド氏

対して顧客から高い評価を得ている。日本でもこういった点を強化していく考えだ。

問 今回日本でスタートするBSCPを締結するパートナー企業数とその条件は？

答：最初の1年間に締結を計画している社数は35社だ。この社数が多いか少ないかはそれほど問題ではない。つまり、社数を優先するのではなく、あくまでも質の高いパートナー企業とのビジネス関係の構築ができるかが重要だ。しかも当社とパートナー企業の双方がウィン・ウィン関係にならなければならないとも考えている。

問 日本市場で貴社が想定している目標は？

答：現在日本での事業展開を積極的に進めているが、具体的な事業目標としては、3年から5年以内に上位3社になることだ。そのためには日本市場で7%以上の市場占有率を獲得することが必要となる。そのためにも、今回初めて開催するBSCPパートナー・カンファレンスに参加している優秀な企業と緊密なパートナー関係を築き、連携を深めることが極めて重要だ。 **ANS**

R.O.D、IPCC2011東京を開催

R.O.Dは、10月13日と14日の両日、東京台東区の東京都立産業貿易センター台東館でIPCC2011東京を開催した。東京での開催は2010年4月以来で1年6カ月ぶりの開催となった。2008年12月福岡での初開催以来12回目、東京で3回目となった今回、開催趣旨に変化が見られた。IPネットワークカメラと関連機器をあまねく紹介するという従来の開催趣旨を、IPネットワークソリューションを実際に導入する上で役に立つ情報を発信するという趣旨に方向性を変更してきた。

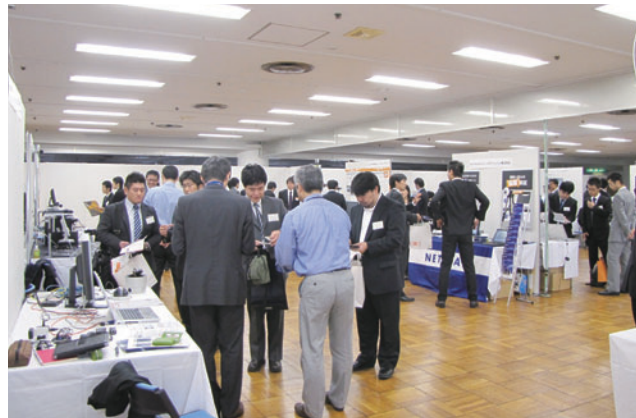
その背景には、この数年間でIPネットワークソリューションが導入される事例が増加してきたこと、それに伴いセキュリティ産業従事者が、IPネットワークソリューションに関する情報収集だけでなくそれに対応できる能力の習得が必須となってきたことがある。

言い換えれば、新規案件の20%から30%前後の割合でIPシステムが採用されてきたことで、潮流はIP市場が成長期を、アナログ市場が安定期を迎

えたことへの対応策と言える。さらに平たく言えば、IPネットワークシステムのコモディティ（日常化）が本格的に動き出している。

このような潮流を象徴していたのが、出展各社の展示内容がソリューションを強調した構成を中核としていたことだった。これまでのような新製品の紹介から具体的なソリューションの提案に比重を移して、エンドユーザの要求に応えられるソリューションを各社がそれぞれの製品特長を生かして紹介していた。

一例を挙げると、IPネットカメラが得手としていないと言われてきた低照度環境での映像確保について、カメラ単独でなくセンサと照明機器を加えたソリューションで対処することで、様々な問題点を解決する提案が何社かのブースで展示されていて、来場者が熱心に説明に耳を傾ける光景が見られた。また、極めて高い解像度を求めるソリューションに対しては、フルHDやそれを超える解像度を有するカメラをネットワークに接続してリアルな映像を表示しているブースにも来場者が集まっていた。



その他にも、IPネットワークシステムで克服しなければならない様々な問題点を解決する各社の製品にも関心が集まっていた。

主催者側は、今回のIPCCから来場者数にこだわるのではなく、来場者がIPCCを現場が抱えている問題に対する具体的な回答を得られる場と理解してもらうことに重点を置くとしていたが、今回のIPCCでその目的の第一段階に踏み込むことができたと言える。

そして、主催者のR.O.D社は、VioStorの新製品として最大48台のネットワークカメラの登録と録画が可能なVioStor-8148Pro+を披露したが、同製品が、IPCC2011東京に出展していた各社のソリューションを実現するターミナルとして位置づけられることを強く印象付けられたことは、R.O.D社にとって何よりの収穫ではないだろうか。そして7,000台超の累計実績だけでなく、出展各社との協業機会を大きく拡張することができたこともまた、同社の今後の事業展開に弾みをつける契機となるだろう。



Secutech India

India's Professional Exhibition and Conference for Electronic Security, Homeland Security and Fire & Safety



<http://www.secutechindia.co.in>

後援

インド消防防災協会
Fire & Security Association of India

インド建設協会
Builder Association of India

電子&通信技術者協会
The Institution of Electronics and Telecommunication Engineers

セキュリティ&安全管理国際研究所
International Institute of Safety & Security Management

インド商工会議所
Indian Merchants Chamber

保安用品工業会
Safety Appliances Manufacturers Association

インドセキュリティ協会
Security Association of India

お問い合わせ先
A S J 社
電話:03-6206-0448
E-mail:info@asj-corp.jp

Secutech インドで 将来性豊かなインド市場を開拓!

日程:2012年3月1~3日

会場:ムンバイ市ボンベイ展示会場

▶ 大きな期待を有する約束された市場

2010年GDPが4兆ドルそして9%の成長率の経済、年成長率31%でセキュリティ産業規模が4500億ドルを誇る根強いセキュリティ需要、そして2007年から2012年までの5年間で7倍もの社会基盤整備への積極的な支出。

▶ 最良のセキュリティ基盤を整えて成長するインド市場

「技術からソリューションまで」のテーマのもと、Secutechインドは、正しい技術と製品そして最高技術水準の製品展示やデモ。

▶ Secutech + ABEC が出展社に必要な販路と来場者をそろえます。

ムンバイ、チェンナイ、デリー、バンガロール、ハイデラバードとインド 5 大都市で主催したAsia ITEX と ACETECH を成功させたことで、ABEC社はIT/通信や建設、低電圧設備関係企業と友好関係を構築しました。Secutechインドは中核の決定権保有者との出会いの場を作ります。

国内

11月

オペレーターズクラウド2011

会期：2011年11月16日～17日
会場：秋葉原UDX
主催：リックテレコム
URL：www.ric.co.jp/expo/opc2011/

Embedded Technology 2011

会期：2011年11月16日～18日
会場：パシフィコ横浜
主催：組込みシステム技術協会
URL：www.jasa.or.jp/et/ET2011/

ものづくりNEXT2011

会期：2011年11月16日～18日
会場：東京ビッグサイト
主催：日本能率協会
URL：www.jma.or.jp/next/

2011 Microwave Workshops & Exhibition

会期：2011年11月30日～12月2日
会場：パシフィコ横浜
主催：電子情報通信学会 APMC国内委員会
URL：apmc-mwe.org/mwe2011/

12月

国際画像機器展 2011

会期：2011年12月7日～9日
会場：パシフィコ横浜
主催：日本画像・計測機器協議会
URL：www.adcom-media.co.jp/ite/

2012年2月

第9回自動認識総合展 大阪

会期：2012年2月21日～22日
会場：マイドームおおさか
主催：日本自動認識システム協会
URL：www.autoid-expo.com/osaka/

2012年3月

JAPAN SHOP 2012

会期：2012年3月6日～9日
会場：東京ビッグサイト
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/js/

リテールテックJAPAN 2012

会期：2012年3月6日～9日
会場：東京ビッグサイト
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/rt/

NFC & Smart WORLD 2012 (第1回)

会期：2012年3月6日～9日
会場：東京ビッグサイト
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/nf/

SECURITY SHOW 2012

会期：2012年3月6日～9日
会場：東京ビッグサイト
主催：日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/ss/

第4回LED Next Stage 2012

会期：2012年3月6日～9日
会場：東京ビッグサイト
主催：特定非営利活動法人LED照明推進協議会
日本経済新聞社
URL：www.shopbiz.jp/ld/

第11回パーキング・ジャパン 2012

会期：2012年3月14日～16日
会場：東京ビッグサイト
主催：ジェイシーレゾナンス
URL：www.parking-japan.com/

イベント	11月 13日 14日	17日 18日	12月 2日
イベント名	▲MOBOTIX JAPAN パートナー・カンファレンス	▲IPCC2011 in大阪	▲第7回IP監視カメラシステム 商品展示会 (ICE7)
主催	MOBOTIX JAPAN	R.O.D	ケーティーワークショップ
場所	横浜ベイシェラトンホテルアンドタワーズ	難波御堂筋ホール7F	東京国際フォーラム ガラス棟 G409
対象者	パートナーシップ企業および 同契約締結希望企業	セキュリティ産業従事者	監視システム販売会社、エンドユーザー
費用	事前登録制・無料	事前登録制・無料	1000円 (ただし、Webからの事前登録で入場料無料)
定員	150名	-	-
URL	http://www.mobotix-japan.net/	http://www.rodweb.co.jp/	http://www.kt-workshop.co.jp/
問い合わせ先	045-227-6174	06-6537-1233	03-5491-5720

海外

11月

SICHERHEIT 2011

会期：2011年11月15日～18日
会場：Messe Zürich, Zürich-Oerlikon,
Switzerland
E-mail：info@sicherheit-messe.ch
URL：www.sicherheit-messe.com

Sfitex

会期：2011年11月15日～18日
会場：Lenexpo, St.Petersburg, Russia
E-mail：site@primexpo.ru
URL：www.sfitex.primexpo.com

IFSEC ARABIA 2011

会期：2011年11月20日～22日
会場：Riyadh International Convention and
Exhibition Centre, Riyadh, Saudi Arabia
E-mail：kristan.johnstone@ubm.com
URL：www.ifsecarabia.com

12月

IFSEC INDIA

会期：2011年12月8日～10日
会場：Pragati Maidan, New Delhi, India
E-mail：alex.nicholl@ubm.com
URL：www.ifsecindia.com

MEFSEC 2011

会期：2011年12月10日～2月13日
会場：Cairo International Convention Center,
Cairo, Egypt
Email：egytec@egytec.com
URL：www.mefsec-middleeast.com

2012年1月

Intersec 2012

会期：2012年1月15日～17日
会場：Dubai International Convention and
Exhibition Centre, Dubai, UAE
Email：intersec@uae.messefrankfurt.com
URL：www.intersecexpo.com

2012年2月

Security and Safety Technologies

会期：2012年2月14日～17日
会場：Crocus Expo, Moscow, Russia
Email：sst@reedexpo.ru
URL：www.tbforum.ru

SICUR

会期：2012年2月28日～3月2日
会場：Madrid Exhibition Centre, Madrid, Spain
Email：ifema@ifema.es
URL：www.sicur.ifema.es

2012年3月

Secutech India

会期：2012年3月1日～3日
会場：Bombay Exhibition Centre, Mumbai, India
Email：sharon.yeh@newera.messefrankfurt.com
URL：www.secutechindia.co.in

ISNR Abu Dhabi

会期：2012年3月19日～21日
会場：Abu Dhabi National Exhibition Center,
U.A.E.
Email：haya.satari@reedexpo.ae
URL：www.isnrabudhabi.com

ISC West 2012

会期：2012年3月28日～30日
会場：Sands Expo & Convention Center, Las
Vegas, NV, USA
Email：inquiry@isc.reedexpo.com
URL：www.iscwest.com

2012年4月

Secutech International 2012

会期：2012年4月18日～20日
会場：台北市世界貿易センター
南港展示ホール
Email：echo.lin@newera.messefrankfurt.com
URL：www.secutech.com

Securex 2012

会期：2012年4月23日～26日
会場：Poznań International Fair, Poznań, Poland
Email：info@mtp.pl
URL：www.securex.pl/en/ss

ISC Brazil 2012

会期：2012年4月24日～26日
会場：Expo Center Norte, Green Pavilion, Sao
Paulo, Brazil
Email：rflibert@reedexpo.com
URL：www.iscexpo.com.br/en

MIPS 2012

会期：2012年4月24日～27日
会場：Expocentre, Moscow, Russia
Email：ilya.sobolev@ite-exhibitions.com
URL：www.mips.ru

下記展示会への出展のお問い合わせはASJ社までどうぞ

2012年1月

Intersec 2012

会期：2012年1月15日～17日(ドバイでの展示会)
会場：UAE ドバイ ドバイ国際会議展示センタ
URL：www.intersecexpo.com

2012年3月

Secutech India 2012

会期：2012年3月1日～3日
(インドのムンバイでの展示会)
会場：ムンバイ市ボンベイ展示会場
URL：http://www.secutech.com/edm/
stin_110520/index.htm

2012年4月

Secutech International 2012

会期：2012年4月18日～20日
会場：台北市世界貿易センター
南港展示ホール
URL：www.secutech.com

システム拡張が容易なArgosViewNVR

【ネットワーク監視の現状】

近年、監視カメラシステムの録画データは急速に大容量化してきている。金融系企業、データセンタなど、当然高いセキュリティを求める業種や業界だけでなく、一般企業においても数カ月から年単位での保存を求める要求が強まっている。ここで大きな問題となるのが、圧縮率の高い方式を採用しても避けて通ることができない大容量のデータを保存するレコーダおよびサーバ台数の増加だ。

このような状況に対応するため、映像監視システムのインテグレーションおよび開発企業であるヴァイ・インターネットオペレーションズは、ネットワーク・カメラ管理システムArgos Viewを提供している。ArgosViewには、最大100台までのカメラを統合管理するArgosView NetCamera Manager、そして同サーバをシームレスに結合することで、最大10000台のネットワーク・カメラを統合管理するArgosView Enterprise Managerを市場に投入している。

さらに、同社は小規模から大規模システムへの拡張に対応できるArgosViewNVR (AVNVR) を発表し販売を開始した。AVNVRは4TBのHDDを搭載した30カメラ対応のAVNVR-4、12TBのHDDを搭載した100カメラ対応のAVNVR-12、AVNVR-12に長時間録画保存(LTO)機能を搭載したAVNVR-12/LTOの3機種を用意している。

【特長】

●大容量・省スペース

本シリーズは1Uタイプで基本設計し



ているため、コンパクトなサイズに収めることができた。また、1Uという標準規格のため収納ラックは汎用製品を使うことができ、省スペースを可能にしている。

●長期間保存を実現するLTO

2Uという省スペースで実現したLTO搭載モデルでは、耐久性とコストパフォーマンスを考慮し、LTO5カートリッジにデータバックアップ機能を標準装備している。メーカー保証が最長30年というLTO5カートリッジの耐久性、商品価格と保管コスト面でのコストメリットを最大限活かすことができる。

●マルチベンダ対応

アナログカメラからIPカメラへの移行の過渡期の今、ハイブリッドすなわちアナログとIPの混在、複数メーカーのカメラの導入という事例が多い。その点は主要マルチベンダに対応しているため、導

入時に機種制限を受けることが少ない。

●スマートフォン対応「最大4画面」

表示機能はPCだけでなく、携帯電話やAndroid端末Ver2.2以降にも対応している。Android端末では最大4画面のモニタリングや、PTZ、録画再生、外部接点出力も可能である。

●容易なシステム拡張

将来システムを拡張する場合は、統合サーバのArgosView Enterprise Managerを併用することで、最大1万カメラの統合管理が可能となる。しかも複数の場所に複数台のカメラを設置する多拠点分散型設置構成にも、1か所に1万台までのカメラ集中設置構成にも対応している。

●安定稼働設計

24時間365日無停止を想定して設計しているため、長期間の安定稼働を確保することができる。

【管理機能】

●ユーザ管理機能

ログインユーザを管理者、マネージャ、一般ユーザの3段階の権限で管理することができる。

●システム稼働監視機能

カメラ死活監視、システムCPU/MEM/DISK使用率、プロセス監視などを、一定間隔ごとに監視し、異常時に管理者にメール通知を行う。

●設定バックアップ/一括登録機能

システムの設定内容の圧縮ファイルによるバックアップ、カメラリストやユーザリストのCSVファイルでの保管、さらに追記したCSVファイルのインポートでカメラやユーザ等の一括登録が可能。

信頼できるメディアを お探しですか？

a&s International誌は貴社ビジネスを効果的に促進するメディアです

a&s International誌は、貴社情報を正確に
様々な国々の読者に届けることができる
プラットフォームです。

a&s International誌は、毎月20,000人以上の
世界各地のセキュリティ専門家、
すなわち販売会社、システムインテグレータ、
CSO、IT管理者などの方々が購読しています。



そして、アクシスコミュニケーションズ、
ボッシュ・セキュリティ・システムズ、
IQinVision、LG電子、
マイルストーン・システムズ、MOBOTIX、
パナソニック システムネットワークス、
シーメンス、ソニー、
タイコ・セキュリティ・プロダクツ、
VIDEOTEKなど世界の錚々たるブランドが
a&s International誌で情報を発信しています。

購読と広告掲載に関するお問い合わせは下記までどうぞ

ASJ社

TEL : 03-6206-0448 FAX : 03-6206-0452

E-mail : komori@asj-corp.jp





テレビドアホン 新 ROCO JL12

- ・視認性、操作性向上「4つの前面ボタン」
- ・カラー映像の3.5型ディスプレイ採用
- ・夜間インターホンが押されると、自動でLEDライトがゆっくり点灯
- ・待受電力25%カット、使用部品点数30%カットのエコ設計
- ・最大設置数は、カメラ付玄関子機1台、モニター付親機1台、モニター付中継親機1台
- ・住宅用火災警報器に接続可能

アイホン

URL : www.aiphone.co.jp

☎ : 0120-141-092 (携帯からは : 0565-43-1390)



音声通信アプリケーション AVT Browser

- ・IP画像通信機 AVT1100SD用
- ・ウェブサイトから最新ファームをダウンロード
- ・iPhone,iPad 端末動作条件
OS : iOS4.1以降
AVT1100SD : ファームウェア Ver.7200以降
- ・Android端末の動作条件
機種 : Android2.1_update1以降
AVT1100SD : ファームウェア Ver.7200以降

アツミ電気

URL : www.atsumi.co.jp

☎ : 053-428-4111



カラーカメラ SE-R600S

- ・38万画素、水平解像度600TV本
- ・最低被写体照度0.01ルクス
- ・電子回路方式デイ/ナイト機能
- ・デジタルWDR (D-WDR)
- ・デジタル・ノイズ除去 (2D-DNR)
- ・フリッカーレス
- ・プライバシーマスク
- ・補助モニター出力端子付

ダイワインダストリ

URL : www.daiwa-industry.co.jp

☎ : 03-3755-6840



高速PTZネットワーク・ドームカメラ DDZ4020

- ・解像度はSD (NTSC/PAL) と HD (最大1,080P/30fps)
- ・1/3インチフルHD CMOSイメージ・センサ
- ・光学20倍、デジタル12倍のズーム
- ・自動焦点 (マニュアル切替付)
- ・WDRとDNR搭載
- ・映像圧縮 : H.264とM-JPEG
- ・双方向音声 (インタコム)
- ・迅速で簡単なインストール

Dallmeier electronic/ドイツ

Email : info@dallmeier.com



1.3M WDR ミニドームカメラ EV8582A

- ・ソニー製センサExmor搭載 (WDR付)
- ・30fps時で130万画素の解像度
- ・双方向音声の内蔵型マイクロフォン
- ・防振、防爆
- ・直/交流8-24V
- ・EN50155認定
- ・ONVIF準拠

Etrovision Technology/台湾

Email : etrosales@etrovision.com



スタンドアロンDVR DS-7200HVI-ST/SEシリーズ

- ・最大16チャンネルの映像・音声入力端子搭載
- ・4CIFまでの解像度で高品質映像を提供
- ・最大容量2TBのSATA方式HDD搭載
- ・VGAとCVBSを同時出力
- ・2系統のストリーミング
- ・動体検知の前後録画

Hikvision Digital Technology/中国

Email : sales@hikvision.com



非接触スマート カードリーダー HA-MCR 30-32 / 45-32

- ・周波数13.56MHzの非接触スマートカードリーダー
- ・ISO 14443A (Mifare®)
- ・6.4cmまでの読取範囲
- ・ブザー内蔵
- ・LED表示機能
- ・破損防止用の取付ネジ
- ・国際標準規格のWiegand出力インタフェース

ハネウェル・セキュリティ/韓国

URL : www.honeywellcctv.co.kr/acs/hs_eng/



防爆型IRドームカメラ HHL7045

- ・ソニー製1/3インチCCDで解像度650TV本を実現
- ・2.8mm固定レンズを搭載
- ・3Dデジタル・ノイズ除去
- ・機能を強化したDSS
- ・D-WDR
- ・情報機能を有するIR
- ・6Wの高出力LED

Hub Technology/中国

Email : sales@hubcctv.com



4チャンネル携帯DVR iVox-104H

- ・安定録画用SSDとCFカード・ポート
- ・D1端子により120fpsの自然な映像を再現
- ・イベント検索用時間割フォーマット
- ・3軸センサによる動体検知
- ・アラーム出力による緊急事態の通知
- ・全部品を摂氏70度で検査済み

IVTEK/韓国

Email : sales@ivtek.co.kr



セキュリティゲート ライトゲートLIG

- ・コンパクトなサイズ：W900×D1,100mm
- ・十分な通路幅：標準(600～650mm) ワイド(900～950mm)
- ・シンプルなデザイン：ステンレス製で様々なシーンに調和
- ・通行能力：25人/分 (自動ドアモードでは50人/分)
- ・安全設計：ウレタン製フラップ 視認性を高めるフラップLED
- ・ユニバーサルデザイン

クマヒラ

URL : www.kumahira.co.jp

☎ : 03-3270-4388



パン/チルトPoE ネットワークカメラ FCS-6010

- ・1/2.5インチCMOSセンサによる30fpsの1.3M映像(1,280x1,024)
- ・H.264, MPEG-4, M-JPEG画像圧縮方式対応
- ・DC12VをIEEE802.3準拠PoEの2系統電源を装備:
- ・着脱可能なIRカット・フィルタと赤外線LEDを搭載
- ・一体型のパン/チルト/10倍デジタル・ズーム
- ・USB内蔵、オプションで11n Wi-FiドングルUSB (WUA-0606)
- ・64チャンネル表示用ソフトウェアを無償供与
- ・最大出力12W

LevelOne/ドイツ

Email : sales@level1.com



Xprotect プロフェッショナル8

- ・サーバ1台あたり最大64カメラをサポート
- ・複数のカメラを簡単に同一に設定できるスマート一括設定
- ・地域ごとの法令対応した画角を隠蔽用プライバシーマスキング
- ・マルチチャンネルと双方向音声により一括で多人数に通信が可能
- ・マルチサーバ、2つのストリーミング、動体検知をサポート

Milestone Systems/デンマーク

Email : info@milestonesys.com



カードリーダー MR2シリーズ NKC-MR2-ACT/BCT/ABC

- ・消費電力を従来比40%抑え、省エネルギー化
- ・全機種 NFC対応非接触カードリーダー
- ・LED表示色をより発光が高輝度になった13色から選択可能
- ・蛍光表示管採用、音声合成ガイダンス内蔵のユニバーサルデザイン
- ・わかりやすく操作しやすいオペレーションキー
- ・屋外設置も可能な防滴構造 (IP53対応)
- ・RoHS指令対応

エヌケーシー

URL : www.nkc-japan.co.jp

☎ : 052-339-2502



VioStor8100シリーズ 8148Pro

- ・8ベイ、48チャンネル
- ・PCレスでモニタリング
- ・ローカル・ディスプレイ上で最大12台まで同時表示
- ・HDMI接続に対応
- ・SATA HDD × 8
- ・2TB/4TB/7TBの3モデル
- ・マルチベンダ対応
- ・姉妹機 : 8140Pro+/8132Pro+/8124Pro+

R.O.D

URL : www.rodweb.co.jp

☎ : 06-6537-1233



フルHD HD-SDI カメラシリーズ

- ・フルHD (1,920 x 1,080, 30 fps) 解像度
- ・HD (1,280 x 720, 60 fps) 解像度
- ・最低照度 : 1ルクス (F1.2 カラー時)、0.1ルクス (モノクロ)
- ・デイ/ナイト機能 (ICR), MD, サムソン・スーパ・ノイズ・リダクション III
- ・RS-485による2系統電源

Samsung Techwin/韓国

Email : techwin@samsung.com



PCベースDVR SDH-H4816LX

- ・アナログカメラ入力16チャンネル
- ・フルD1表示と記録
- ・H.264 AVC H/W 圧縮
- ・8チャンネルのDI/DO, 16チャンネルの音声
- ・多種のストレージ・フォーマットに対応
- ・スケジュールおよび手動バックアップ
- ・ウェブによるサポートのあるCMS
- ・iPhoneとアンドロイド対応

Servntec/韓国

Email : sales@servntec.com



映像監視用プラットフォーム DIVA

- ・拡張性の高いモジュール方式構造
- ・簡単に局在化できるグラフィック・マップ
- ・中央集約型のユーザ管理
- ・フェイルオーバー・サーバへの自動切り替え
- ・複数の圧縮方式によるHD画質
- ・複数の時間管理方式
- ・複数のセキュリティ・サブシステムとサードパーティ製品に対応

Siqua (TKH Group) /オランダ

Email : sales.nl@siqua.com



フルHD-SDI固定カメラ SCS-H436DN

- ・フルHD解像度1,920 x 1,080P (1,080P/30fps時), 1,280x720P (720P/60fps時)
- ・CDSセンサによるフィルタ変換によるデイ/ナイト機能
- ・高解像度RGB補間器
- ・2D/3D順応型DNR
- ・5C-HFBTケーブルによる最大200mのSDI信号送信
- ・アナログCVBS出力 (NTSC, PAL, アスペクト比は16:9と4:3)
- ・WDR

Sicam Systems/韓国

Email : sales@sicam.co.kr



メガピクセル・レコーダ SMR5000

- ・3百万画素カメラを20系統に接続
- ・ホットスワップ可能な5つのディスク
- ・インテル社製複数ハードウェア対応RAIDエンジン
- ・リアルタイム映像情報検出
- ・最大1920x1080の表示
- ・社内設計および生産による信頼性
- ・3年間の保証

Surveon Technology/台湾
Email : sales@surveon.com



ネットワーク メガピクセル ドーム型カメラ N-CC2800MD

- ・1.3MピクセルCMOSセンサ採用
- ・SXVGAの高解像度撮影を実現 (JPEG: 1280 x 960)
- ・MPEG-4方式の動画を同時に送信可能
- ・「デイナイト機能」搭載
- ・「E-WDR機能」搭載
- ・IP66対応の屋外仕様
- ・外部からの強い衝撃でも壊れにくい防爆型
- ・バリフォーカルレンズ搭載
- ・音声入出力端子で高品質な音声送受信可能

TOA
URL : www.toa.co.jp
☎ : 078-303-5631



WDRネットワークカメラ SD8362E

- ・フルHD対応ソニー製CMOSセンサ搭載
- ・最大60fps720p HD、30fps1,080pフルHD
- ・20倍ズームレンズ
- ・360度の連続したパンと90度のチルト
- ・リアルタイムH.264, MPEG-4、M-JPEG圧縮対応
- ・高コントラストで優れた可視性を実現するWDR
- ・IP66準拠の耐候ハウジング

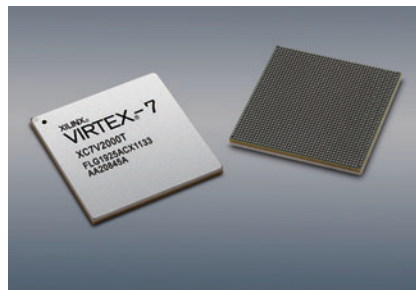
VIVOTEK/台湾
Email : sales@vivotek.com



HD-CCTV DVR HD800H 8-CH

- ・フルHD対応のHD-CCTV 8チャンネルDVR
- ・H.264ベースラインとメインプロファイルによる最大1,080p画像
- ・再生時で最高1,080P/120fps、720P/240fpsの解像度
- ・HD-SDI 1,080P (1,920 x 1,080); 720P (1,280 x 720) の映像入力
- ・再生時で1200TV本以上のフルHD解像度
- ・H.264, M-JPEGの2系統のコーデック
- ・フルHD、HD、D1CIFのマルチストリーム
- ・最大64TBまでの外部ストレージ

Webgate/韓国
Email : sales@webgateinc.com



世界最高容量FPGA Vertex-7 200T

- ・スタックド・シリコン・インターコネクト技術を採用
- ・2000万ASICゲート相当の200万ロジックセル
- ・テラビットレベルの性能
- ・100%統合したシステム
- ・30W以下の優れた消費電力効率
- ・設計変更が可能な柔軟性
- ・開発期間を大幅に短縮

ザイリンクス
URL : japan.xilinx.com
☎ : 03-6744-7740



全天候型 2M砲弾型 ネットワークカメラ B7210

- ・フル1,080P (1,920x1,080) /2百万画素解像度
- ・バリフォーカルDCアイリス・レンズによる高品位の画像
- ・最大35mまで照射する高出力LED
- ・着脱可能な赤外線カット・フィルタによる自動デイ/ナイト機能
- ・摂氏-30度から50度までの苛酷な温度環境用のヒータとファンを内蔵
- ・IP68準拠の耐候型屋外ハウジング
- ・PoE対応
- ・SD/SDHCカードスロット搭載

Zavio/台湾
Email : sales@zavio.com

世界のバイヤーと日本のメーカーを結びます

セキュリティ総合情報専門誌

世界各地で配布しているA&S各誌を通して、世界のセキュリティ産業界の主要企業やキーマン、有力従事者に情報を提供しています。このことから、最も効率の良い産業界のメディアとの評価を獲得しています。現在、A&S International、A&S Asia、A&S Japan、A&S China Best Buys、A&S China、A&S Installer、A&S Taiwan、A&S Turkey、A&S Adria、A&S Italyの専門誌を刊行しています。



A&S International

- 1997年創刊
- 世界市場向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数 20,000部
- 年間購読料金 9,000円 (税別)



A&S Asia

- 1998年創刊
- アジア地域向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数16,000部
- 年間購読料金 6,000円 (税別)



A&S China

- 1994年創刊
- 中国向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数27,000部
- 年間購読料金 9,000円 (税別)



A&S Installer

- 2001年創刊
- 中国設置施工業者向けセキュリティ専門誌
- 月刊
- 発行部数22,000部
- 年間購読料金 9,000円 (税別)



A&S Taiwan

- 1994年創刊
- 台湾向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数17,000部
- 年間購読料金 6,000円 (税別)



A&S Türkiye

- 2008年創刊
- トルコ向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数6,000部
- 発行元はMarmara Fair Organization
- 年間購読料金 6,000円 (税別)



A&S Adria

- 2008年創刊
- ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、コンボ、モンテネグロ、スロバキア、セルビア向けセキュリティ専門情報誌
- 月刊
- 発行部数2,500部
- 発行元はGlobal Security d.o.o
- 年間購読料金 9,000円 (税別)



A&S Italy

- 2010年創刊
- イタリア向けセキュリティ専門情報誌
- 隔月刊
- 発行部数6,000部
- 発行元はEthos Media Group
- 年間購読料金 6,000円 (税別)

お問い合わせ:

ASJ社 (Advanced Security Journal Corp.)

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階

Tel : 03-6206-0448 Fax : 03-6206-0452 Email : info@asj-corp.jp

a&s海外雑誌 年間購読申込書

申込日 年 月 日

<input type="checkbox"/> a&s INTERNATIONAL	(月 刊)	9,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s ASIA	(隔月刊)	6,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s CHINA [簡体字]	(月 刊)	9,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s INSTALLER [簡体字]	(月 刊)	9,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s SOLUTION [簡体字]	(月 刊)	9,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s TAIWAN [繁体字]	(隔月刊)	6,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s TURKEY	(隔月刊)	6,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s ADRIA	(月 刊)	9,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s ITALY	(隔月刊)	6,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読
<input type="checkbox"/> a&s INDIA	(隔月刊)	6,000円	2011年	<input type="text"/>	月号より1年間購読

送 付 先

住所 1	〒		
住所 2	(ビル名などはこちら)		
貴社名			
部署名			
電 話		FAX	
役職名			
ご氏名			
E-MAIL			

振 込 先

ゆうちょ銀行(9900) ゼロイチハチ店(10180) 普通 03723281
ASJ合同会社(エーエスジェー ゴウドウガイシャ)
※振込手数料は貴社にてご負担いただきますようお願い申し上げます。
※発送は入金確認後および送付先は日本国内限定とさせていただきます。

FAX 番号 03-6206-0452

a&S JAPAN

電子版 創刊!



<http://www.asj-corp.jp/>

これまで隔月で発行しお送りしてきました **a&S JAPAN** に、新たに **a&S JAPAN 電子版** が登場しました。
 無料閲読方法は下記の手順で簡単にできます。
 電子版は、すべて雑誌内容と同一です。近日中にはバックナンバーもお読みいただけます。

● 無料閲読登録方法

① **新規無料購読お申込み** をクリックします。

②



無料購読をご希望の方は下記よりメンバー登録をしてください。
 折返しログインIDとパスワードを発行するための、ご登録手続きご案内メールをご記入いただいたメールアドレスに返信いたします。

③



各項目にご記入の上、下部の送信ボタンを押してください。
 受信後に登録完了メールをお送りします。

④



下記の登録完了メールが到着します。
 パスワードとログインIDの入力で電子版の閲読ができます。

電子版創刊に伴い、**a&S JAPAN 雑誌版** は年間購読方式に切り替えさせていただきます。
 年間購読料金は3,000円です。詳細は下記 URL をご覧ください。
http://www.asj-corp.jp/paid_reading/

ASJ社

東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階
 〒101-0041 TEL : 03-6206-0448 FAX : 03-6206-0452
 E-MAIL : reader@asj-corp.jp

読者の声

系統だった記事構成を求める

従来のCCTVからIPネットワークシステムに変わりつつある映像監視の世界だが、貴誌の取り上げる記事は、これからのセキュリティのあるべき姿を根幹において構成されている。そのため、特集や製品特集の内容が系統だっているのではなく完結型になっているのだが、その割には詳細な説明や基礎的な部分の解説が、前提となる知識を有していない読者にとっては理解しにくいことがある。できれば、1年間の記事を読みこなせば、IPネットワークシステムを理解することができるような構成を検討いただきたい。

(東京 情報処理)

無線活用情報をもっと詳しく

東日本大震災でも大きく取り上げられることの多かった通信システムだが、携帯電話が使えるとか使えないとか、公衆電話が撤去されたため電話連絡が混乱したとかばかりに関心が集まっていた。しかし、広域監視では様々な無線を活用すべきであり、そのためにどのような無線システムを構築し運用していくかが重要な要件となっているのは確かだ。9/10月号で緊急通報に 대응するブロードバンド無線の特集があったが、日本固有の無線事情の記事を加えてもらえばさらに説得力が出たのではないかな。

(千葉 公務員)

段階を経たシステム更新の情報を

IPネットワークシステムが確実に普及しているのを肌で感じているが、未だにCCTVを更新する事例が多いのも実感できる。その背景には、厳しい経済環境による費用負担と一気に先端システムに切り替える際の不安感がある。そこで、CCTVからHD-CCTV、そしてIPネットワークシステムへと移行することも一策として考えられるのではないかな。そこで、このような段階を経た移行策の具体的な事例や提案などの情報を、導入側である顧客に分かりやすい内容でもっと取り上げていただきたい。

(愛知 設置施工業)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティシステムを既に導入あるいは導入を予定している側いずれからのご応募でも結構です。お寄せいただいた内容については、有識者による適切な回答を掲載以降に発行する本誌に掲載します。ただし、特定企業や団体または個人に対して誹謗中傷または批判する内容はご遠慮ください。

一例を挙げると、セキュリティシステムを導入したいがどのような手順で進めればよいのか、事前説明については複数の会社からの説明を受けたほうが良いのはわかるが、その内容が理解できないときはどうすればよいのかなど、セキュリティに関することであれば詳細は問いません。また、原則として匿名で掲載しますので、個人情報漏洩する懸念はありません。

ただし、正確な回答をご案内するために、導入条件や環境についてはできるだけ具体的に記載してください。ご応募をお待ちしています。

a&s Japan 編集部

TEL 03-6206-0448

FAX 03-6206-0452

info@asj-corp.jp

a&s Japan NOVEMBER/DECEMBER 2011 (No.25)

広告主名(ABC順)	掲載頁
BOSCH SECURITY SYSTEMS	7
BRICKCOM	3
DYNACOLOR JAPAN	9
フィットデザインシステム	46
フリーシステムズジャパン	1
GENETEC	43
HONEYWELL	表4
ジャバテル	43
MINTRON	表3
ネットカムシステムズ	表1、4-5
日本経済新聞社	34
TAIWAN SECURITY NET	13
店舗プランニング	表2

*広告索引は本誌の任意サービスです。誤字・脱字などに関する責任は負いかねます。

次号案内 2012年1/2月号 (1月10日発行予定)

特集

2011年の総括と
SECURITY50

個別市場

生産工程

製品特集

モバイル・
ソリューション

技術解説

ハイブリッド/IPの
セッティング

連載

よくわかるIPネットワーク、
生体認証

※タイトルと内容は変更することがあります。

掲載情報募集中

■ 製品紹介

日本国内で提供しているセキュリティ製品の情報を募集中です。掲載希望の製品に関する下記データをお送り下さい。

- ・140字程度の製品紹介
(簡条書きおよび「である調」または体言止め)
- ・製品画像データ1点 (1メガバイト程度)

■ 各種情報

セキュリティ産業関連情報を募集中です。掲載希望の内容に関する下記データをお送り下さい。

- ・1500字程度の情報紹介文 (「である調」または体言止め)
- ・製品画像データ数点 (1メガバイト程度)

■ 送付先

ASJ社編集部

info@asj-corp.jp
TEL : 03-6206-0448
FAX : 03-6206-0452

ASJ JAPAN ©ASJ社 2011年11-12月号 No.25

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

市場動向 | 製品情報 | 技術情報 | ソリューション情報

最新の市場動向と新しい製品や技術の紹介、統合ノウハウ、国内外の事例を幅広く提供します。

発行人 小森 堅司
制作協力 Draw The Line
Office103
サイドディッシュ
印刷 新日本印刷

■ 広告に関するお問い合わせ

電話: 03-6206-0448または
E-mail: komori@asj-corp.jp まで

■ 購読に関するお問い合わせ

電話: 03-6206-0448または
E-mail: reader@asj-corp.jp まで

■ 記事情報提供に関するお問い合わせは

E-mail: marie-k@asj-corp.jp まで

※DM代行サービスおよび電子メール配信サービス当社では、広告主の依頼によりダイレクトメールまたは電子メールで広告情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を広告主には一切公開していません。

a&s JapanはMesse Frankfurt New Era Mediaが発行するa&s International、a&s Asiaをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権を特約して発行しているセキュリティ国際情報誌です。

ASJ社

Advanced Security Journal Corporation
東京都千代田区神田須田町1-7-1ウィン神田ビル10階 〒101-0041
電話: 03-6206-0448 FAX: 03-6206-0452

高感度で 高解像度を実現

CMOS/CCD HDカメラ
1080p/720p 50/60fps



HD-IP カメラ

- HD 720pマルチプル・ストリーム
- コーディック : H.264 / MPEG-4 / M-JPEG
- CVBS



メガピクセル モジュール

- イメージセンサー : 1.3~3M CMOS / CCDセンサー
- ARM /メモリー内蔵
- デジタルビデオ出力 : YUV 4:2:2 16bit (SMPTE 274M/296M)
- CVBS 出力 : Over 800TVL
- 機能調整可能 : De-Highlight/BLC/DWDR/AGC/3D DNR/removable
IR-Cut/Fog-Reduction/Eclipse/Freeze/Digital P.T.Z
- IRカット切り替え
- コミュニケーション : RS-232C / OSD
- 低消費電力化



3G-SDI カメラ

- 非圧縮ビデオ : 720p/1080p
- 同軸ケーブルで伝送可能
- バイトレート : 2.97Gb/s
SMPTE 292M/424M
- ワンケーブル :
ビデオ/オーディオ/ RS-232C 搭載
- CVBS

MINTRON ENTERPRISE CO., LTD.

No.123,Wu-Kung 1 Rd., Wu-Ku Industrial Park, Taipei (248), Taiwan

Tel : 886-2-22990277 E-mail: service@mintron.com.tw

Fax: 886-2-22989375 Web : www.mintron.com Skype: mintron3601



ISO-9001



ISO-14001



RoHS



QC080000

Honeywell Access Control Solution



小規模・低価格アクセスコントロールシステム

IP-AK2 アクセスコントロールシステムはS/Wのインストールが必要なく、webベースのソフトが組み込まれたソフトを使用し、低コストでシステム運営ができ、小規模プロジェクトに適したアクセスコントロールシステムです。

- 小規模システムのためのアクセスソリューション
- ウェブブラウザ上でシステムのコントロール
- インターネットが使用可能な環境であればどこからでも遠隔コントロールが可能
- フラッシュメモリが搭載されて簡単にシステムアップグレードが可能
- 64ビット対応

Honeywell

Honeywell Security North Asia

(〒105-0022)東京都港区海岸1-16-1ニューピア竹芝サウスタワー21F(受付20F) 電話: 03-6730-7195 FAX: 03-6730-7229
5F, Sangam IT Tower 1590, Sangam-Dong, Mapo-gu, Seoul 121-835, Korea
Tel: (82)2-799-6395, 6066 Fax: (82)2-799-6188 www.honeywell.co.kr/security/english